

参考データ集

2010年5月14日

連結子会社および持分法適用関連会社 INPEX

連結子会社 54社

主な連結子会社	国(地域)名	出資比率	ステージ	決算期
ジャパン石油開発	アラブ首長国連邦	100%	生産中	3月(仮決算)
ナトゥナ石油	インドネシア	100%	生産中	3月
サウル石油	チモール海・共同開発地域	100%	生産中	12月
インペックス西豪州ブラウズ石油	オーストラリア	100%	開発準備作業中	3月(仮決算)
インペックス南西カスピ海石油	アゼルバイジャン	51%	生産中	3月(仮決算)
インペックス北カスピ海石油	カザフスタン	45%	開発中	3月(仮決算)

持分法適用関連会社 12社

主な持分法適用関連会社	国(地域)名	出資比率	ステージ	決算期
MI Berau B.V.	インドネシア	44%	生産中	12月
アンゴラ石油	アンゴラ	19.6%	生産中	12月
インペックス北カンポス沖石油	ブラジル	37.5%	生産中	12月

所在地別セグメント情報

2010年3月期連結累計期間(2009年4月1日～2010年3月31日)

(単位:百万円)

	日本	アジア・オセアニア	ユーラシア (欧州・NIS諸国)	中東・アフリカ	米州	計	消去または 全社	連結
売上高	93,958	352,383	73,574	303,818	16,692	840,427	—	840,427
営業費用	61,404	161,313	33,805	98,246	15,663	370,433	8,325	378,759
営業利益	32,554	191,069	39,769	205,571	1,028	469,993	(8,325)	461,667
資産	240,879	451,167	446,848	229,842	85,241	1,453,980	559,797	2,013,778

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度及び事業活動の相互関連性によっております。
 2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。
 (1) アジア・オセアニア.....インドネシア、オーストラリア、東チモール、ベトナム
 (2) ユーラシア(欧州・NIS諸国)...アゼルバイジャン、カザフスタン、イギリス
 (3) 中東・アフリカ.....アラブ首長国連邦、コンゴ民主共和国、イラン、リビア、エジプト、アルジェリア、アンゴラ
 (4) 米州.....ベネズエラ、エクアドル、アメリカ合衆国、カナダ、スリナム、ブラジル
 3 営業費用のうち、「消去又は全社」の項目に含めた配賦不能営業費用(8,766百万円)の主なものは、のれんの償却及び一般管理部門にかかる費用であります。
 4 資産のうち、「消去又は全社」の項目に含めた全社資産(562,927百万円)の主なものは、のれん、現金預金、有価証券、投資有価証券及び管理部門に係る資産であります。

2

LPG売上高

	09年3月期	10年3月期	増減	増減率
売上高(億円)	158	185	26	16.8%
販売量(千bbl)	2,067	3,377	1,310	63.4%
海外生産分平均単価 (\$/bbl)	68.03	55.74	△12.29	△18.1%
国内生産分平均単価 (¥/kg)	143	111	△31	△22.3%
平均為替(¥/\$)	103.83	92.22	△11.61	△11.2%

地域別販売量(千bbl)	09年3月期	10年3月期	増減	増減率
日本	191 (18.2千トン)	212 (20.2千トン)	21 (2.0千トン)	11.0%
アジア・オセアニア	1,876	3,164	1,289	68.7%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	-	-	-	-
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	-	-	-	-
合計	2,067	3,377	1,310	63.4%

3

利払い・償却・探鉱費前利益(EBIDAX)

(百万円)	09年3月期	10年3月期	増減	備考
純利益	145,062	107,210	△37,852	P/L
少数株主損益	725	9,691	8,966	P/L
減価償却相当額	95,450	92,766	△2,684	
減価償却費	42,966	40,354	△2,612	C/F コンセッション契約及び販管費に係る減価償却費
のれん償却額	6,760	6,759	△1	C/F
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	45,724	45,653	△71	C/F PS契約に係る減価償却費相当額
探鉱費相当額	46,010	30,332	△15,678	
探鉱費	25,982	15,710	△10,272	P/L コンセッション契約に係る探鉱費
生産物回収勘定引当金操入額	16,642	6,028	△10,614	P/L PS契約に係る探鉱費相当額
探鉱事業引当金操入額	3,386	8,594	5,208	P/L PS契約に係る探鉱費相当額
重要な非現金項目	△7,797	4,511	12,308	
法人税等調整額	△17,883	2,132	20,015	P/L
為替差損益	10,086	2,379	△7,707	C/F
税引後ネット支払利息	△3,585	△1,971	1,614	P/L 税引後の支払利息一受取利息
EBIDAX	275,865	242,539	△33,326	

4

生産物回収勘定の増減推移

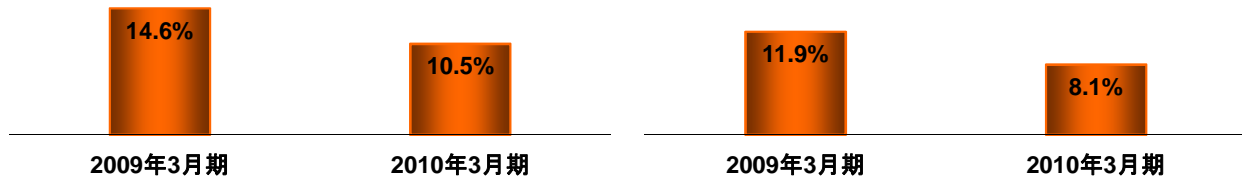
(百万円)	08年3月期	09年3月期	10年3月期
生産物回収勘定(期首)	319,149	383,162	453,922
増加:			
探鉱投資	27,459	23,643	10,084
開発投資	183,002	160,589	146,028
操業費	52,697	55,929	54,938
その他	-	-	2,670
減少:			
コスト回収(CAPEX)	92,147	45,724	45,653
コスト回収(Non-CAPEX)	106,047	104,847	107,074
その他	951	18,830	270
生産物回収勘定(期末)	383,162	453,922	514,645
生産物回収勘定引当金	71,445	87,828	94,891

5

収益性指標

ネットROACE*

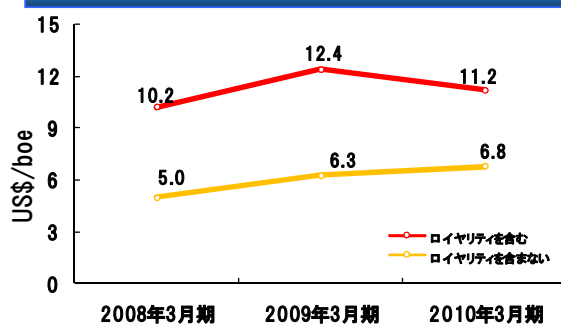
ROE**



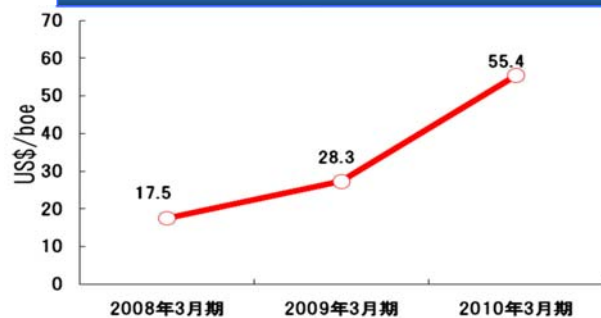
* ネットROACE = (当期純利益 + 少数株主損益 + (支払利息 - 受取利息) × (1 - 実効税率)) / (純資産及び純有利子負債の合計の期初と期末の平均)
 ** ROE = 当期純利益 / (純資産 - 少数株主持分) の期初と期末の平均値

埋蔵量・生産量指標

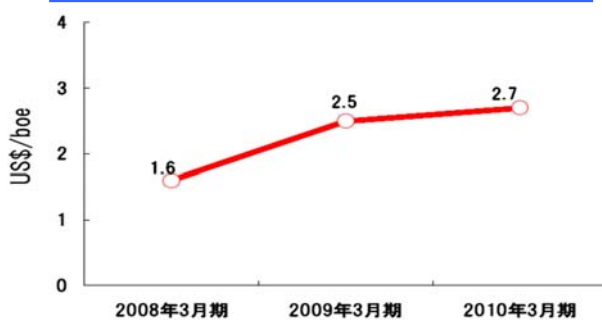
原油換算1バレル当たりの生産コスト



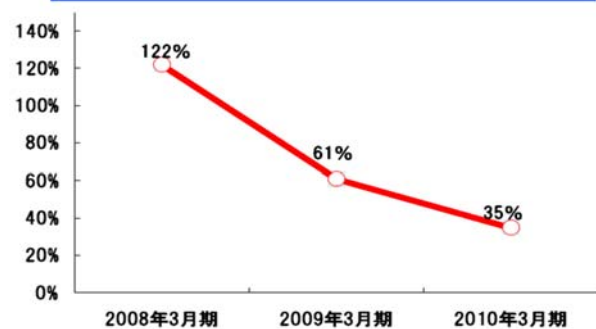
原油換算1バレル当たりの探鉱・開発コスト*(3年平均)



原油換算1バレル当たりの販売費及び一般管理費



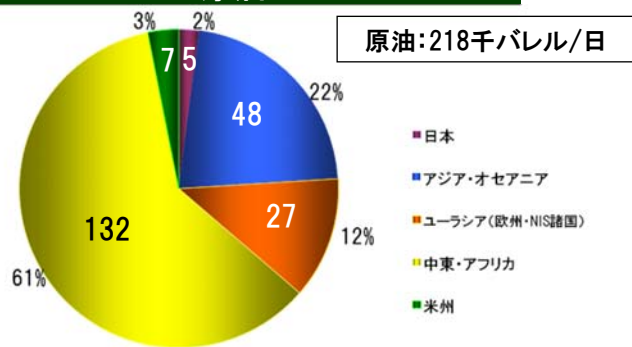
リザーブリプレースメントレシオ*(3年平均)



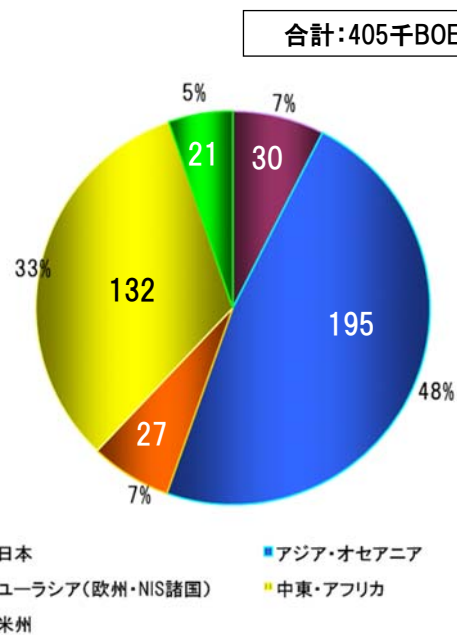
*今後、イクシス、アバディ、カシャガン、ADMA 鉱区等のプロジェクトについて、最終投資決定や鉱区期限の延長等が実現すれば、推定・予想埋蔵量/資源量が確認埋蔵量に格上げされ、リザーブリプレースメントレシオは中長期的に平均100%以上となる見込みであり、また、探鉱・開発コストも減少する見通しである。

生産量*(2009年4月-2010年3月)

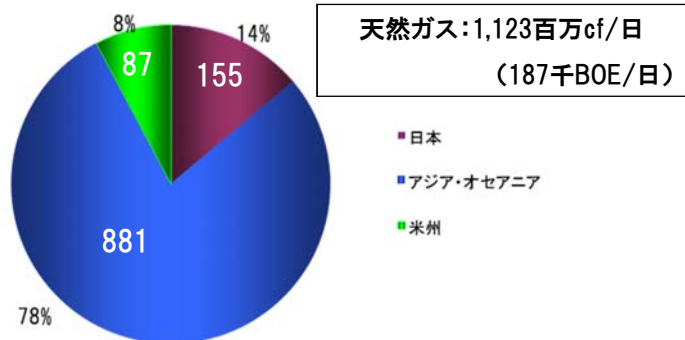
原油



原油・天然ガス合計



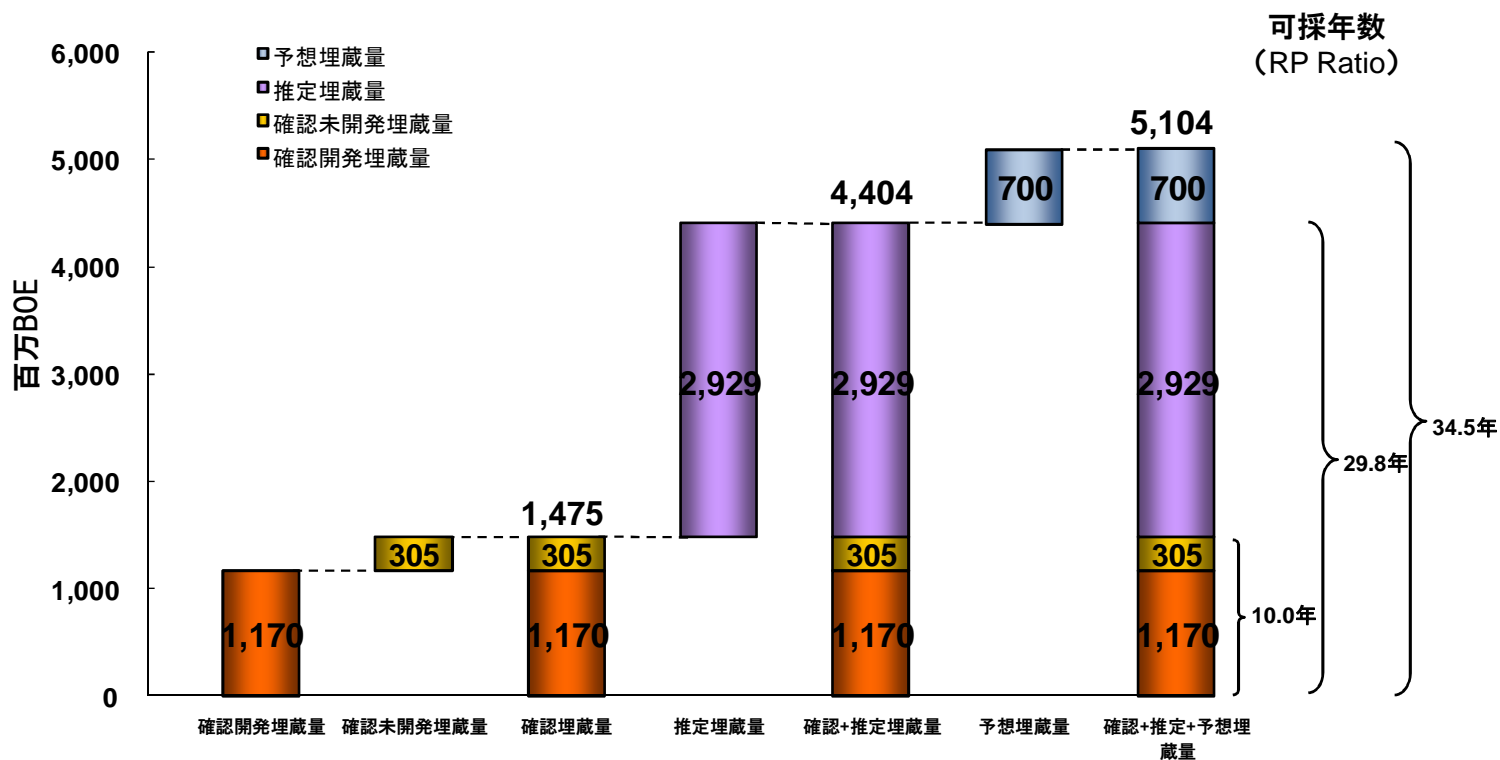
天然ガス



8

* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。

確認・推定・予想埋蔵量*による アップサイドポテンシャル



* 確認埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づく米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。推定埋蔵量と予想埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づくSPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSに従った数値。DeGolyer&MacNaughton社評価対象外の埋蔵量を含まない。また、持分法適用会社の持分を含む。

9** 可採年数=2010年3月末「確認埋蔵量」または「確認埋蔵量+推定埋蔵量」/2010年3月期生産量実績 (RP Ratio: Reserve Production Ratio)

プロジェクト参考データ

2010年3月期 探鉱計画*



* ()内の数字は掘削坑井数
 ** オペレータープロジェクト
 *** 権益取得費を含む

	探鉱投資額*** (億円)	試掘井(本)	2D震探(km)	3D震探(km ²)
2010年3月期(実績)	336	8	461	5,095
2011年3月期(予想)	560	14	1,158	3,540

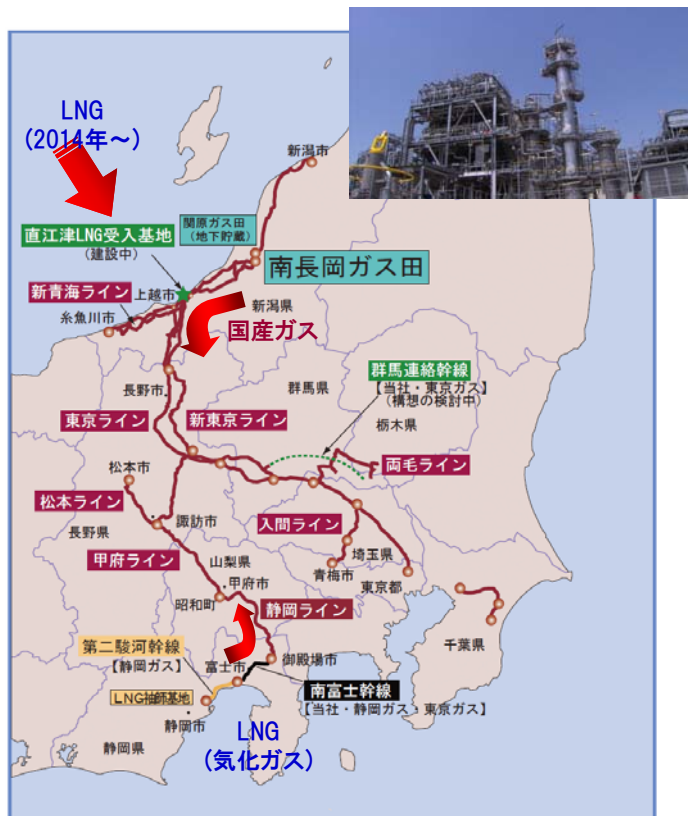
主な生産・開発プロジェクト



生産開始スケジュール

生産開始	プロジェクト・油ガス田	国	オペレーター	ピーク生産量・生産キャパシティ	当社シェア*1
10年下半年	ラベンスワース油田	オーストラリア	BHPBP	- *3	28.5%
11年下半年	キタン油田	JPDA	ENI	4万bbl/日	35%
12年4月~13年3月	カシャガン油田	カザフスタン	NCOC*5	150万bbl/日	7.56%
13年4月~14年3月	ウムルル油田 ナスル油田	アラブ首長国連邦	ADMA-OPCO	- *3	12.0%
14年4月以降	ジョスリンオイルサンドプロジェクト(露天掘り) イクシスLNGプロジェクト(LNG) (コンデンセート) (LPG) アバディLNGプロジェクト	カナダ オーストラリア インドネシア	TOTAL 当社 当社	20万bbl/日 約840万 ^{トン} /年 約10万bbl/日 約160万 ^{トン} /年 450万 ^{トン} /年*4	10% 76% 90%*2
既発見・生産開始未定	クダ・タシ/ジャハール構造 コニストン/ノバラ構造 カイラン/アクトテ/カラムカス/カシャガンサウスウェスト構造 エルオアールI&II	JPDA オーストラリア カザフスタン アルジェリア	ENI Apache NCOC*5 ENI	未定 未定 未定 未定	35% 41.324% 7.56% 10.29%
フェーズ1本格生産は未定(初期生産中)	アザデガン油田	イラン	NICO	26万bbl/日	10%

*1 当社シェアは、鉦区権益比率。ただし、持分法適用関連会社分は、鉦区権益比率に当社出資比率を乗じたもの
 *2 2009年11月に10%の権益譲渡契約を締結済。先行条件の充足により発効予定。
 *3 プロジェクトパートナー各社との守秘義務上、公開不可
 *4 フェーズ1
 *5 North Caspian Operating Company



- 生産量*
 - ・ 天然ガス: 約4.2百万m³/日 (147百万cf/日)
 - ・ 原油: 約4千バレル/日
- 南長岡ガス田 (1984年生産開始)
 - ・ 供給能力: 5.3百万m³/日
 - ・ 関原地下貯蔵: 2.4百万m³/日
- 天然ガス販売状況
 - ・ 静岡ガス(株)からのLNG導入によりソースを多元化 (2010年1月~)
 - ・ 2009年度販売量: 17.1億m³**
 - ・ 中長期的に20億m³を超える規模の需要を想定
- パイプラインネットワークの拡充 (総延長約1,400km)
 - ・ 新青海ライン (約68km/2009年9月完成)
- 直江津LNG受入基地の建設 (2014年操業開始予定)
 - ・ 当社グループによるガスサプライチェーン構築へ
- 発電事業: 約5.5万kw

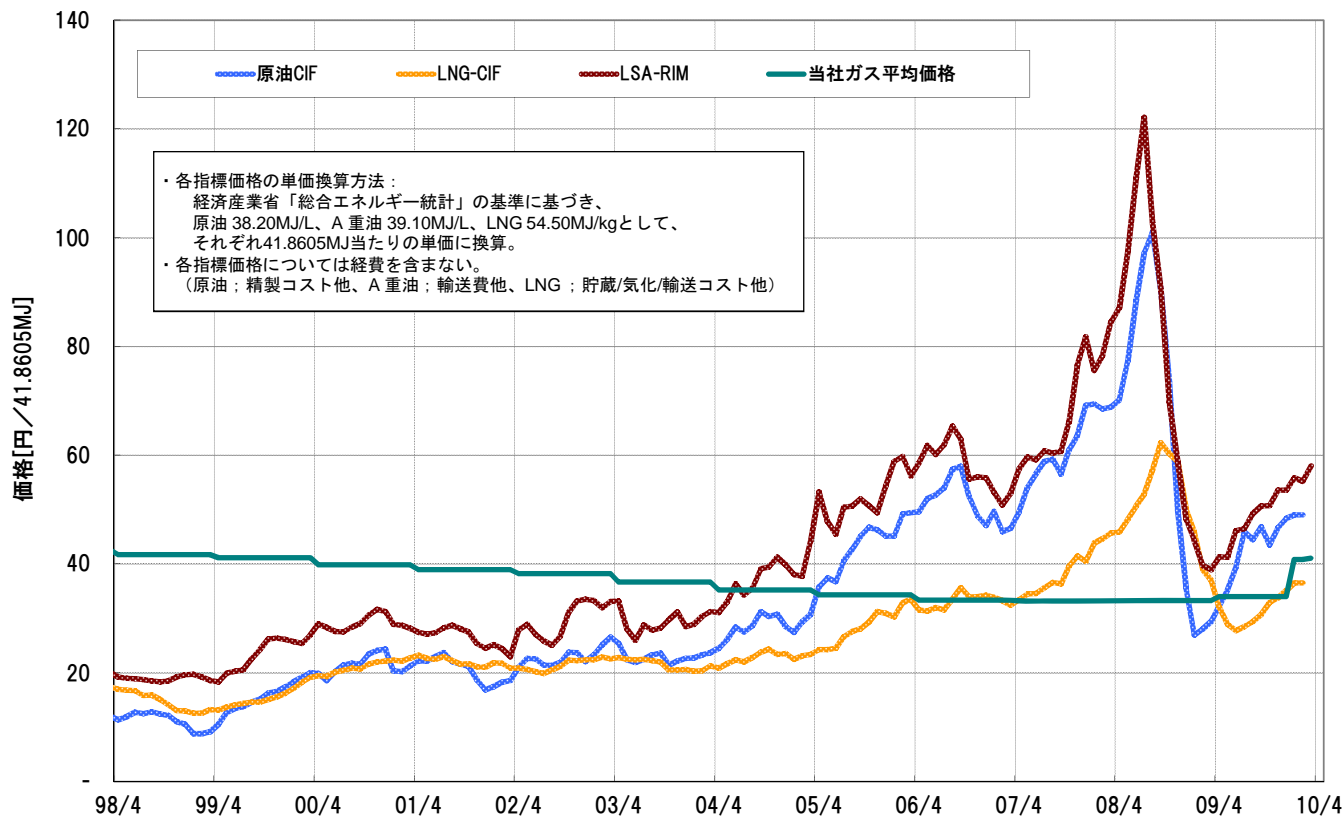
* 国内油田・ガス田の合計(2009年度平均日産量)

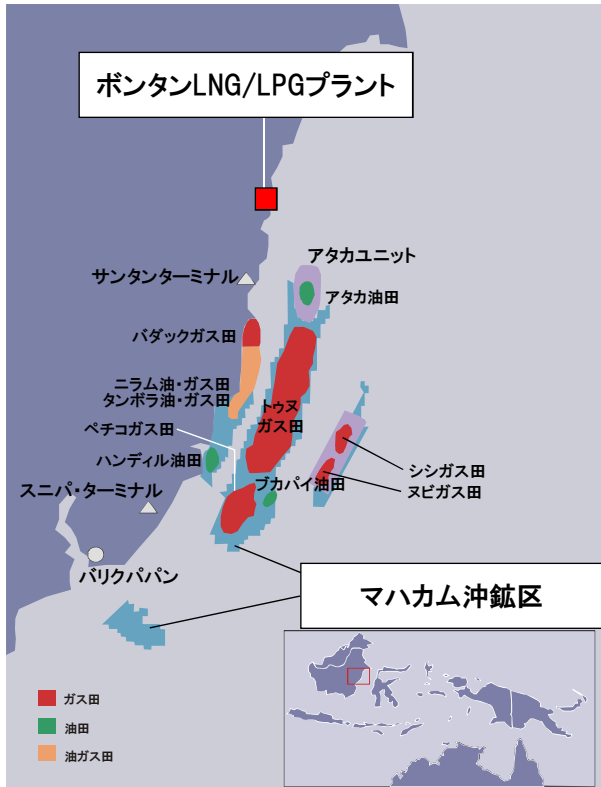
** 1m³当たり41,860MJ換算

国内パイプラインネットワーク

国内天然ガス価格

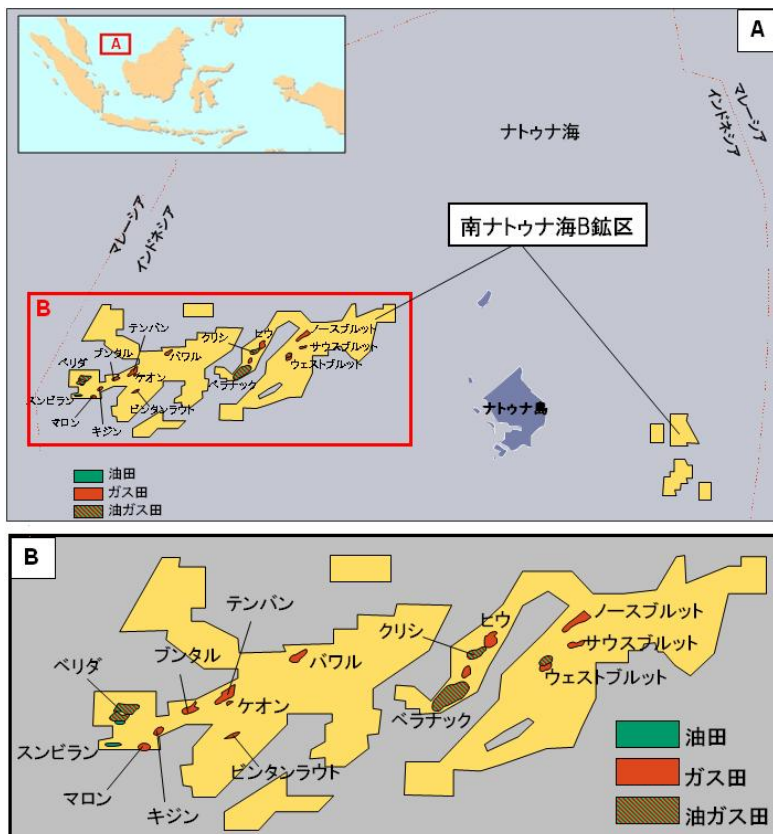
単位あたりの価格の比較





- 当社権益比率: 50%
(オペレーター: TOTAL)
- 生産量*
 - ・ 原油・コンデンセート: 日量約7万6千バレル
 - ・ 天然ガス: 日量約26億立方フィート
- PS契約: 2017年まで
- ポンタンLNG基地へのガス安定供給を目的として開発作業を継続
 - ・ トウヌ/ペチコガス田の段階的開発
 - ・ タンボラ油・ガス田の追加開発
 - ・ シシ/ヌビ ガス田の開発
- 2009年2月、LNG販売契約の更新に係る基本合意書締結
- PS契約の延長に向けTOTALとともにインドネシア当局と交渉継続中

注: * 全鉱区ベース、2010年3月平均日産量

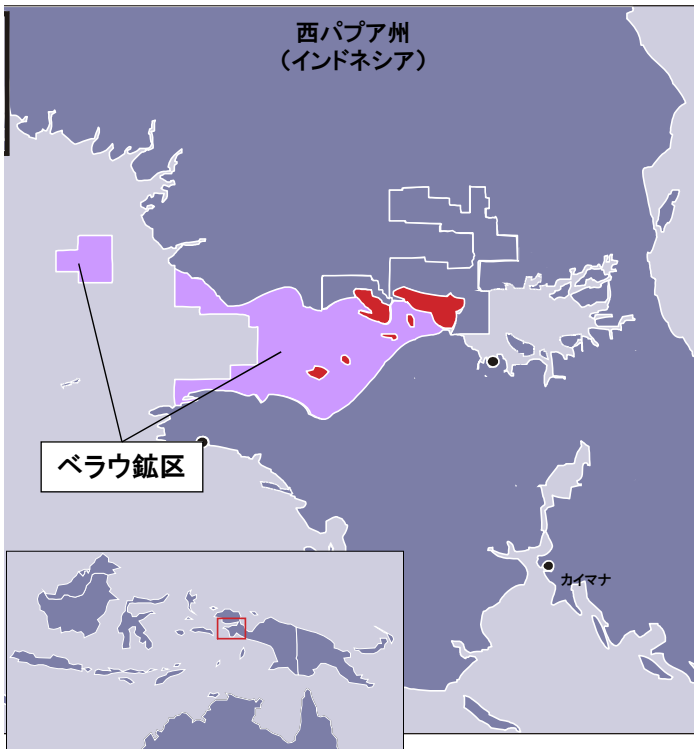


- 当社権益比率: 35.0%
(オペレーター: ConocoPhillips)
- 生産量*:
 - ・ 原油: 日量約6万バレル
 - ・ LPG: 日量約2万1千バレル
 - ・ 天然ガス: 日量約5億立方フィート
- PS契約: 2028年まで
- SembCorp社(シンガポール)と2001年より22年間、Petronas(マレーシア)と2002年より20年間の天然ガス販売契約締結
- 2004年12月、世界有数規模のFPSOで操業を行うベラナック油ガス田より原油・コンデンセートの生産を開始
- 2007年4月、ベラナック油ガス田よりLPGの生産を開始
- 2007年12月、クリシ油ガス田より生産開始
- 2009年11月、ノースブルットガス田より生産開始

* 全鉱区ベース、2010年3月平均日産量

ベラウ鉱区(タンゲーLNGプロジェクト) MI Berau B.V./MIベラウジャパン

INPEX

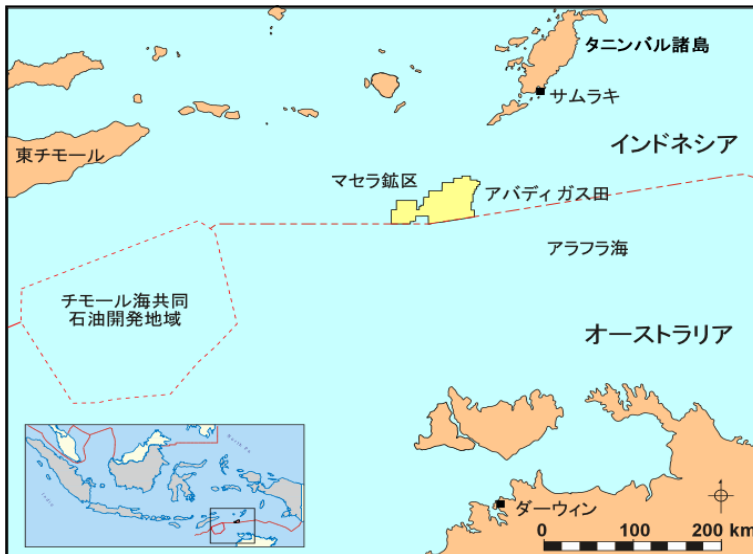


* 全鉱区ベース、2010年3月平均日産量

- MI Berau/MIベラウジャパン*:
三菱商事とのJV(当社44%、三菱商事56%)
*MIベラウジャパンはケージーベラウ石油開発に約16.5%出資
- 権益比率:
MI Berau分:
ベラウ鉱区 22.9%(タンゲー・ユニット 16.3%)
ケージーベラウ石油開発分:
ベラウ鉱区 12%(タンゲー・ユニット 8.56%)
(オペレーター:BP)
- PS契約: 2035年まで
- インドネシア政府より、開発計画、生産分与契約の延長についての承認取得
- LNGプロジェクト開発費用として、総額35億米ドルの融資契約を締結
- 生産計画: 年間760万トン
- LNG販売契約
 - ・ 中国福建省向け販売契約を締結
 - ・ 韓国POSCO社及びK-Power社と販売契約を締結
 - ・ 米国Sempra社と販売契約を締結
- 2009年7月、LNG船第1船出荷
- 生産量*
 - ・ コンデンセート: 日量約5千バレル
 - ・ 天然ガス: 日量約8億立方フィート

マセラ鉱区(アバディ) インペックスマセラアラフラ海石油

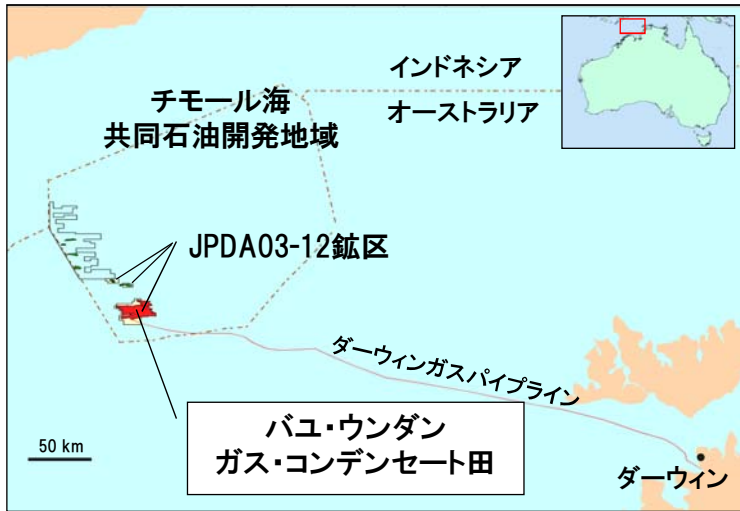
INPEX



- インドネシア企業1社(PT EMP Energi Indonesia社)に対し参加権益10%を譲渡*
*2009年11月に10%の権益譲渡契約を締結済。先行条件の充足により発効予定。
 - オペレーター: 当社
 - PS契約:
 - ・ 探鉱期間10年間(2008年まで)
 - ・ 開発・生産期間20年間(2028年まで)
 - 2000年に試掘井アバディ1号にて天然ガスを発見
 - 2002年に評価井2坑を掘削、アバディ構造が大規模ガス田であることを確認
 - 埋蔵量評価を目的として、2007年5月より4坑の評価井掘削を実施
 - 開発計画(POD)についてインドネシア政府より基本承認を取得
 - 基本承認された開発計画における開発コンセプト**
 - ・ Floating LNGによる開発方式
 - ・ LNGは年間450万トンの生産
 - ・ 生産開始目標: 2016年
- **第三者評価の進捗等により開発計画について調整の可能性有

JPDA03-12 鉱区 (バユ・ウンダン ガス・コンデンセート田) サウル石油

INPEX



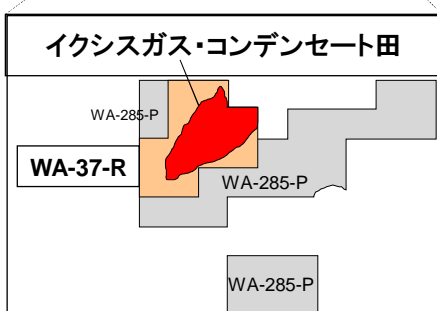
- 当社権益比率: 11.27%
(オペレーター: ConocoPhillips)
- 生産量*
 - ・コンデンセート: 日量約6万2千バレル
 - ・LPG: 日量約3万8千バレル
 - ・天然ガス: 日量約6億立方フィート
- PS契約: 2022年まで
- 2004年2月にコンデンセート/LPG販売開始
- 2005年8月、東京電力/東京ガスとLNG販売契約締結(2006年から17年間、年間300万トン)
- 2006年2月、LNG販売開始

* 全鉱区ベース、2010年3月平均日産量

20

WA-37-R 鉱区 (イクシス) 及び WA-285-P 鉱区 インペックス西豪州ブラウズ石油

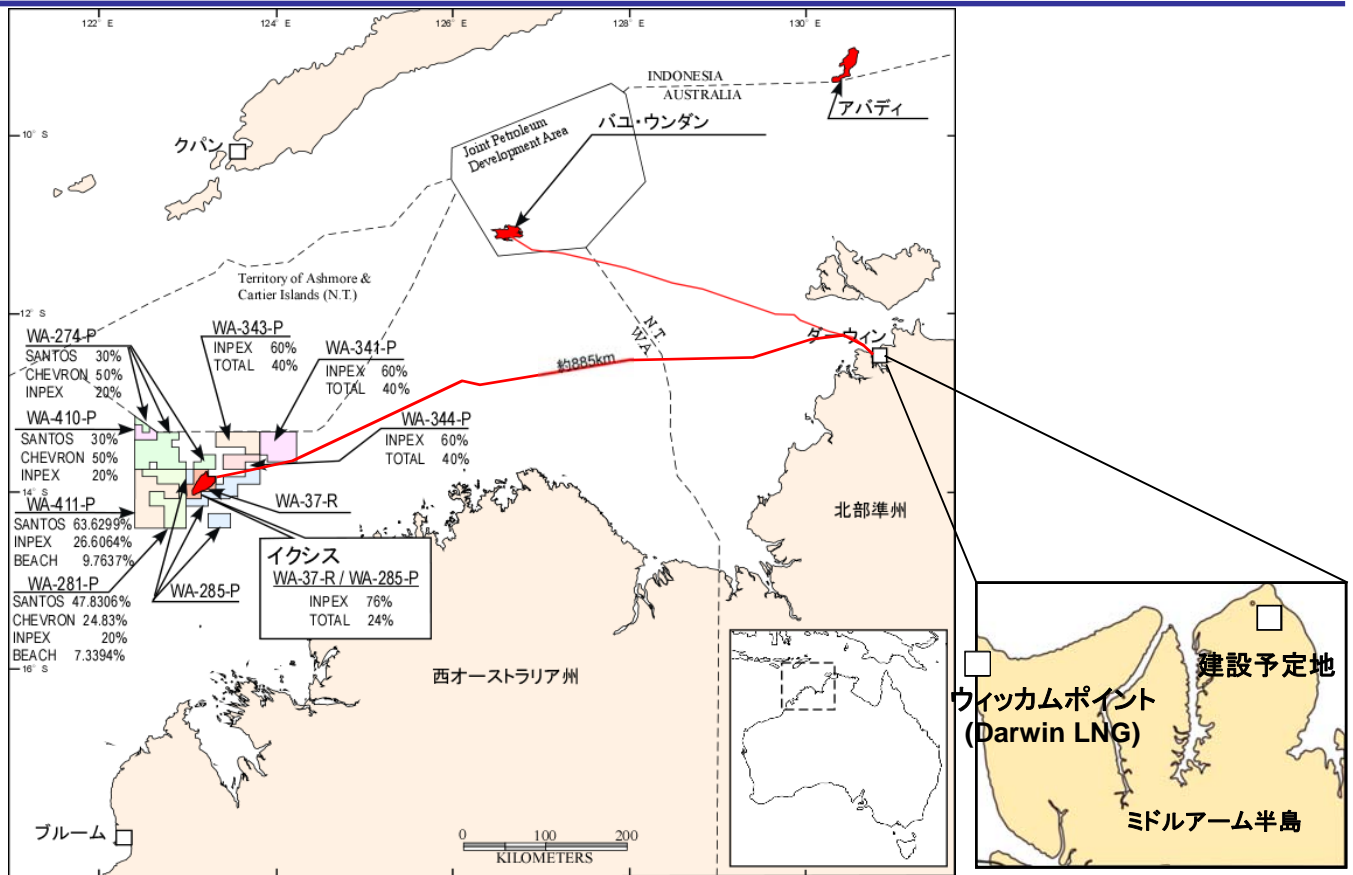
INPEX



- 当社権益比率: 76.0%
- オペレーター: 当社
- 利権契約:
 - ・探鉱期間 契約更新(5年間)につき現在申請中(WA-285-P)
 - ・リテンションリース期間 2014年9月まで(WA-37-R)
 - ・生産期間 ライセンス付与から生産終了まで
- 2000年より計6坑井を掘削し大規模天然ガス・コンデンセート田を確認、イクシス構造と命名
- 2006年5月、豪州連邦政府及び西豪州政府に対し、プロジェクトの環境影響審査手続きを開始
- 2006年8月、長期にわたり豪州経済発展に貢献するプロジェクトとして、豪州連邦政府が主要促進プロジェクトに認定
- ガス埋蔵量の拡大を目的として、試掘井Dinichthys North-1を2007年4月より、また試掘井Ichthys West-1を2008年4月より掘削し、計8坑の試探掘を実施
- 2008年5月、豪州連邦政府及び北部準州政府に対し、プロジェクトの環境影響審査手続きを開始
- 2008年9月、ガス液化プラント建設地を北部準州ダーウィンに決定
- 2009年1月、ガス液化プラントの基本設計作業(FEED)開始
- 2009年4月、イクシス ガス・コンデンセート田沖合生産施設・パイプラインの基本設計作業(FEED)開始
- 2009年4月、ダーウィン事務所開設
- 2009年9月、イクシスガス・コンデンセート田をカバーするブロックにつきWA-37-R 鉱区としてリテンションリースが付与された。WA-37-R以外のブロックについては従前通りWA-285-P 鉱区として探鉱作業継続中
- 2010年3月、暫定鉱区開発計画書(PFDP)を政府に提出。生産ライセンスの取得手続き開始
- 2010年4月、EIS(Environmental Impact Statement)ドラフトを連邦政府及び北部準州政府へ提出。5月7日、パブリックレビュー開始に関する連邦環境大臣承認取得
- LNGを年間約840万トン、コンデンセートを日量約10万バレル(ピーク)、LPGを年間約160万トン生産予定

21

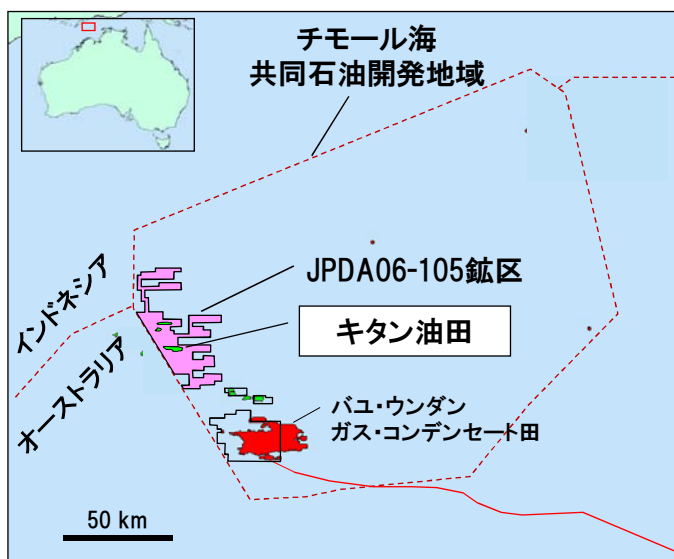
インペックス西豪州ブラウズ石油 保有鉱区位置図 **INPEX**



22

JPDA06-105鉱区(キタン油田) インペックスチモールシー **INPEX**

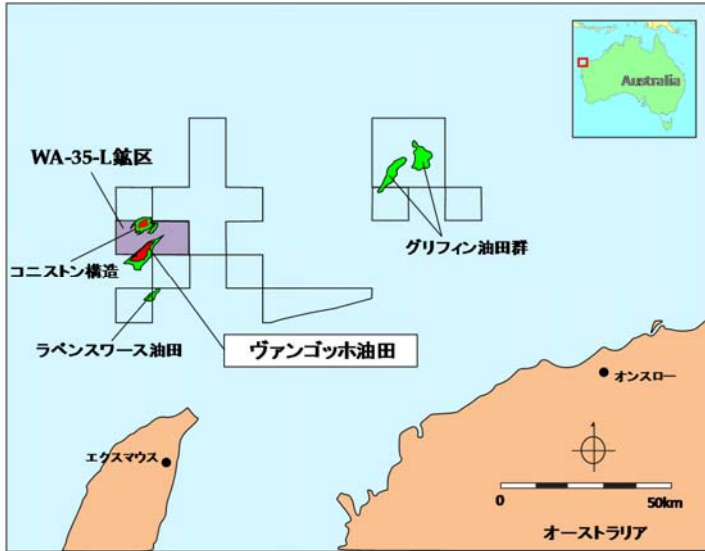
INPEX



- 当社権益比率: 35%
(オペレーター: Eni)
- PS契約: 2011年9月まで
- 2008年3月、試掘井キタン1号井及び評価井キタン2号井において原油を確認
- 2008年4月、キタン油田商業発見宣言
- 2009年5月、キタン油田の開発計画を共同管轄当局に提出
- 2010年4月、キタン油田の最終開発計画に対し共同管轄当局の承認取得
- 2011年下半期、生産開始予定

23

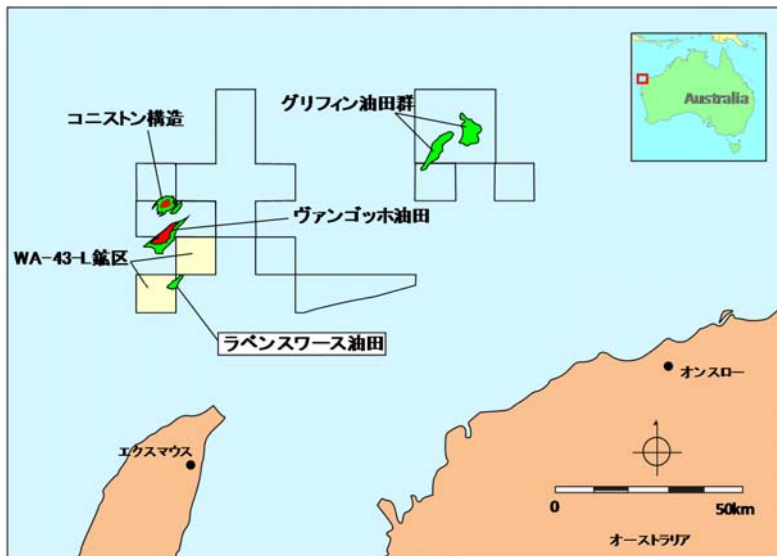
WA-35-L 鉱区 (ヴァンゴッホ油田) アルファ石油



- 当社権益比率: 47.499%
(オペレーター: Apache)
- 利権契約
- 2008年10月生産ライセンス取得
- 2010年2月に原油生産開始
- 生産量*:
原油: 日量約5万バレル

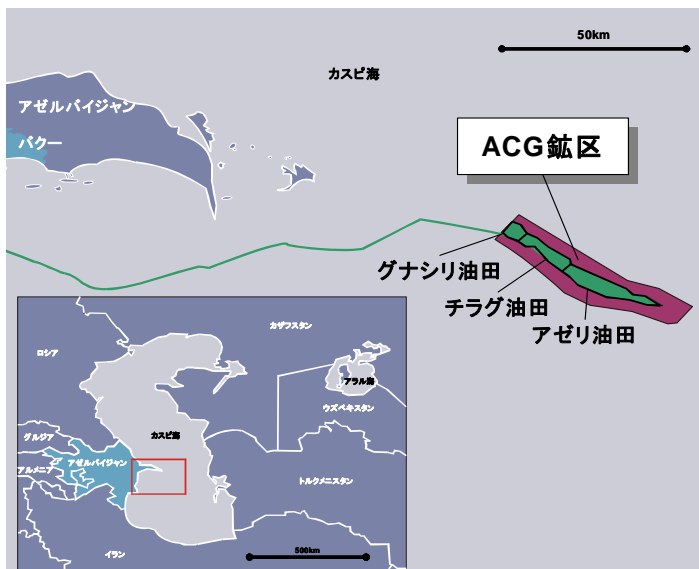
* 全鉱区ベース、2010年3月平均日産量

WA-43-L 鉱区 (ラベンスワース油田) アルファ石油



- 当社権益比率: 28.5%
(オペレーター: BHPBP)
- 利権契約 (2009年11月生産ライセンス取得)
- 2007年11月、開発移行を決定
- 隣接するWA-12-R 鉱区の生産施設への繋ぎ込みによる開発
- 2010年下半期、生産開始予定

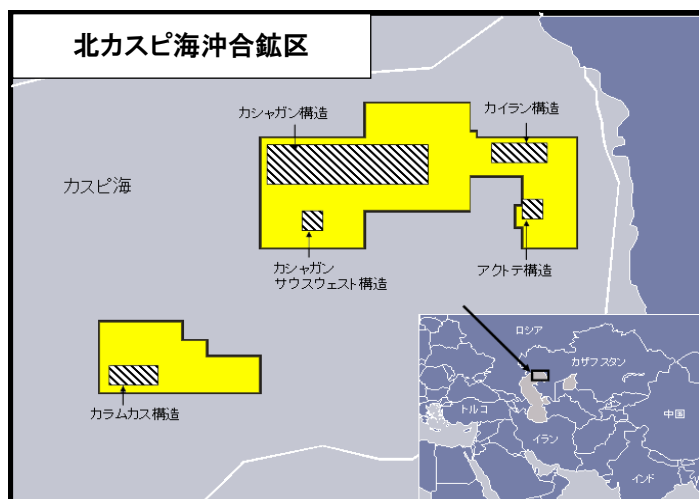
ACG油田 インペックス南西カスピ海石油 INPEX



- 当社権益比率: 10.0%(オペレーター:BP)
- 生産量:日量約79万バレル*
- PS契約: 2024年まで
- チラグ油田は1997年に生産開始
- フェーズ1: アゼリ油田中央部は2005年2月に生産開始
- フェーズ2: アゼリ油田西部は2005年12月に生産開始、アゼリ油田東部は2006年10月に生産開始
- フェーズ3: グナシリ油田深海部は2008年4月に生産開始
- 2010年3月に、追加開発(Chirag Oil Project)の政府承認

* 全鉱区ベース、2010年3月平均日産量

カシャガン油田他 インペックス北カスピ海石油 INPEX

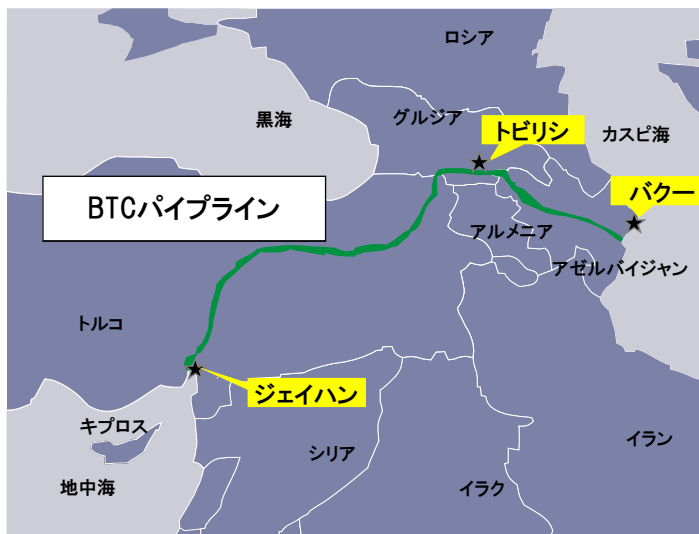


- 当社権益比率: 7.56%
- PS契約: 2021年末まで*
- 2000年6月カシャガンにおいて原油発見
- カシャガン油田以外にもカラムカス/アクトテ/カيران/南西カシャガンの4構造にて炭化水素の存在を確認
- 2008年10月、カザフスタン政府と最終合意に到達
- 新操業会社(North Caspian Operating Company)を設立。2009年1月より、同社が現行オペレーターAgip KCO社の役割を承継
- 2012年末 生産開始目標
- 第一段階の開発(Experimental Program)では、原油生産量(プラトー生産量)は、日量30万バレル、続いて45万バレルに逐次増加。カシャガン油田の全体開発では、2010年代末に向けて日量150万バレルを予定

*20年間の延長オプション有り

BTC(BakuTbilisiCeyhan)パイプラインプロジェクト INPEX BTC Pipeline, Ltd.

INPEX

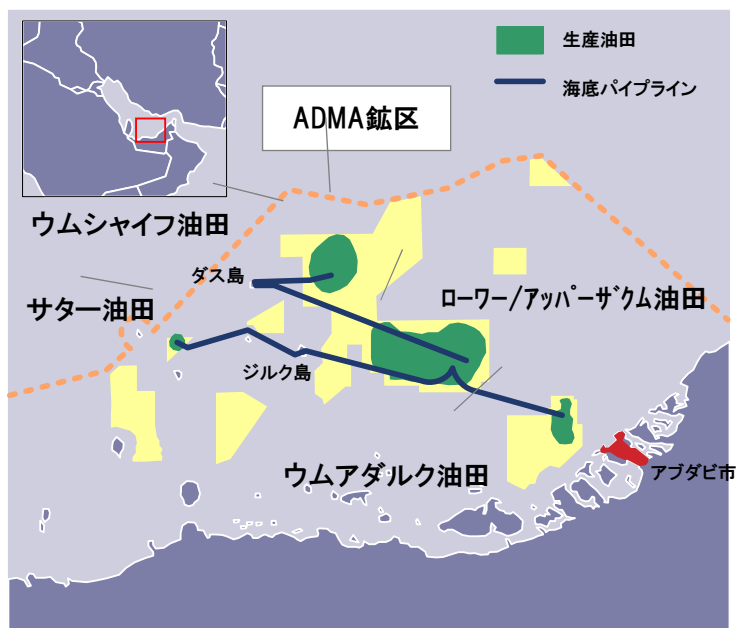


- 当社権益比率:2.5%(オペレーター:BP)
- 2002年10月に操業会社BTC Co.の発行済み株式をINPEX BTC Pipeline, Ltd.が取得
- 2004年2月、パイプライン建設の資金調達を目的とするプロジェクトファイナンス契約調印
- 2006年6月、ジェイハンターミナルから原油出荷開始
- 2007年第2四半期、輸送能力日量100万バレルの設備のコミッショニングを完了
- 2009年3月、輸送能力日量120万バレルまでの拡張作業を完了
- 2010年3月末、累計8.6億バレル出荷

28

ADMA鉦区 ジャパン石油開発(JODCO)

INPEX



- ウムシャイフ/ローワーザクム
 - ・ 当社権益比率: 12.0%(オペレーター: ADMA-OPCO*)
- アッパーザクム/ウムアダルク/サター
 - ・ 当社権益比率:
アッパーザクム/ウムアダルク 12.0%
サター 40.0%(オペレーター:ZADCO*)

*アブダビ国営石油会社とJODCOなどで設立した操業会社。JODCOから両社へそれぞれ12%を出資。

- 利権契約: 2018年まで(ただしアッパーザクム油田の権益期限は2026年)
- 生産量維持・拡大のため開発作業を継続中
 - ・ 全油田で水圧入を実施
 - ・ ウムシャイフ/ローワーザクムでガス圧入を実施
 - ・ 有望未開発4構造の開発計画策定作業
 - ・ 新ガス圧入施設(ウムシャイフ)、追加ガス処理施設(ローワーザクム)設置作業
 - ・ 人工島を利用した再開発計画策定作業(アッパーザクム)

29

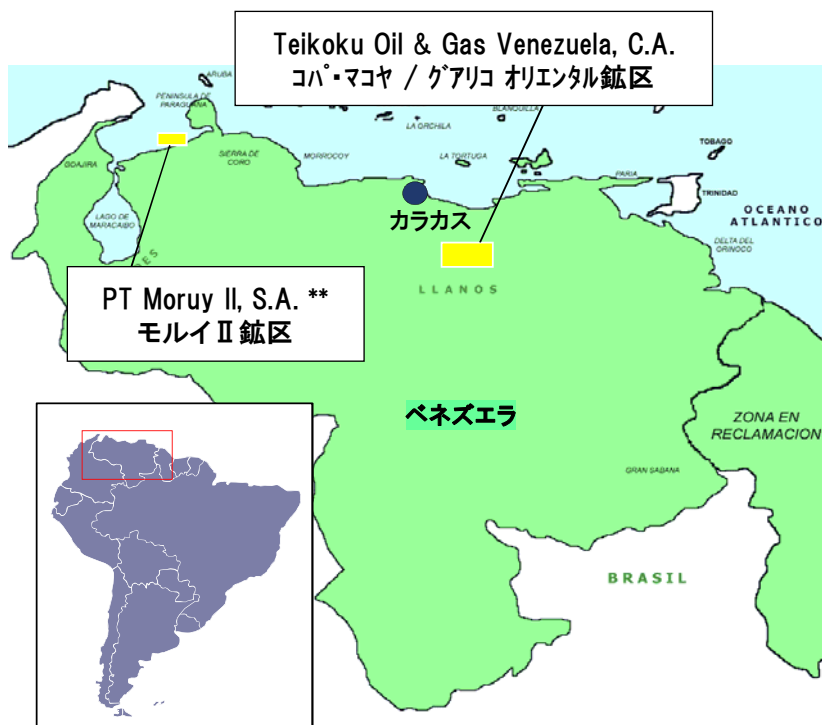
アザデガン油田 アザデガン石油開発



- 当社権益比率:10%
- サービス契約(バイバック契約)
- 2004年2月に合意された開発計画では、開発第1段階として2013年に日量15万バレル*、開発第2段階へ移行した場合、2017年以降に日量26万バレル*の生産に達する見込みとされていた
- 地雷除去の遅延、その他その後の諸情勢の変化に伴い、今後開発計画の見直しが行われる予定

*全鉱区ベース。

ベネズエラ プロジェクト Teikoku Oil & Gas Venezuela, C.A.ほか



コパ・マコヤ (ガス事業)/

グアリコ オリエンタル鉱区(原油事業)

- ジョイントベンチャー出資比率
 - ・ガス事業:70%、原油事業:30%
- ジョイントベンチャー契約
 - ・2006-2026年
- 生産量*
 - ・ガス: 日量約85百万立方フィート
 - ・原油: 日量約2千バレル

モルイⅡ 鉱区

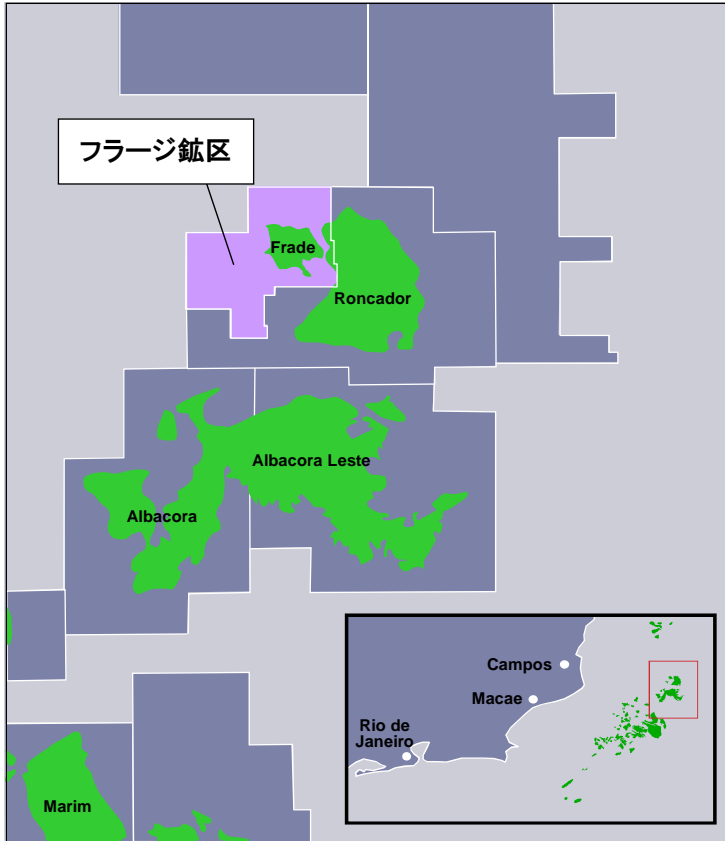
- 当社権益比率:50%
- 義務井試掘1号井掘削済

* 全鉱区ベース2010年3月平均日産量

** ペトロプラスと当社50:50の共同出資によるJV

フラージ鉱区

Frade Japão Petróleo Limitada (FJPL)

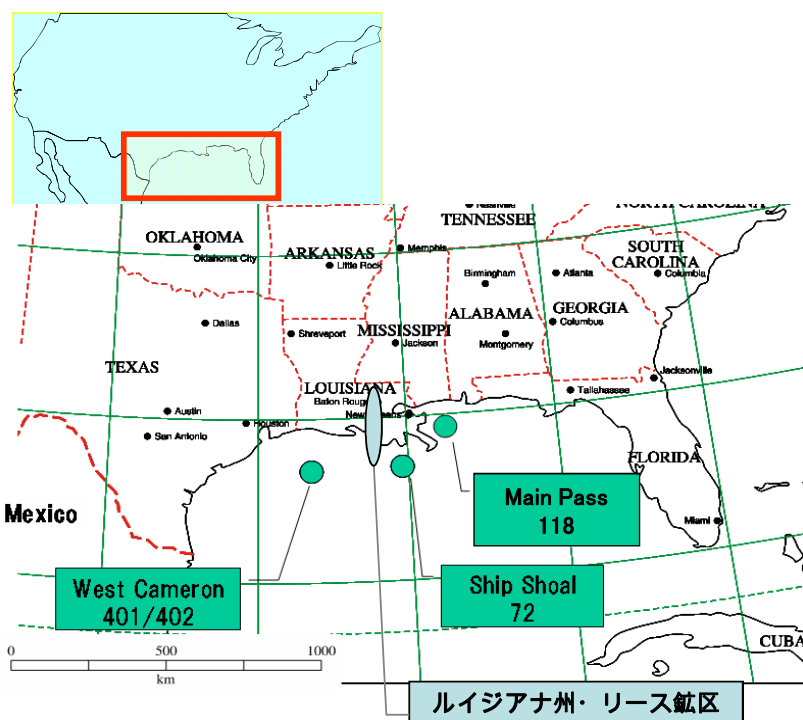


- 権益比率: FJPL*18.3%
(オペレーター: Chevron)
- *持分法適用関連会社(当社はFJPLの37.5%の株式を保有)
- 生産量*:
 - ・原油: 日量約2万6千バレル
- コンセッション契約: 2025年まで
- 2006年6月、最終投資決定
- 2009年6月、生産開始
- ピーク生産量は、日量約10万バレル



*全鉱区ベース、2010年3月平均日産量

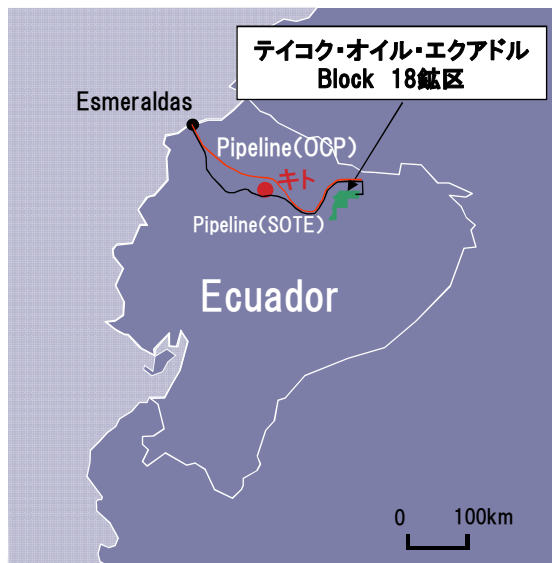
米国メキシコ湾 プロジェクト Teikoku Oil (North America) Co., Ltd.



- 当社権益比率
 - ・ Ship Shoal 72 : 25%
 - ・ West Cameron 401/402 : 25%
 - ・ Main Pass 118 : 10%
 - ・ ルイジアナ州・リース鉱区
LSL 19372:17.5%
- コンセッション契約
- 生産量*
 - ・ ガス: 日量約31百万立方フィート
 - ・ 原油: 日量約1千5百バレル

* 全鉱区ベース2010年3月平均日産量

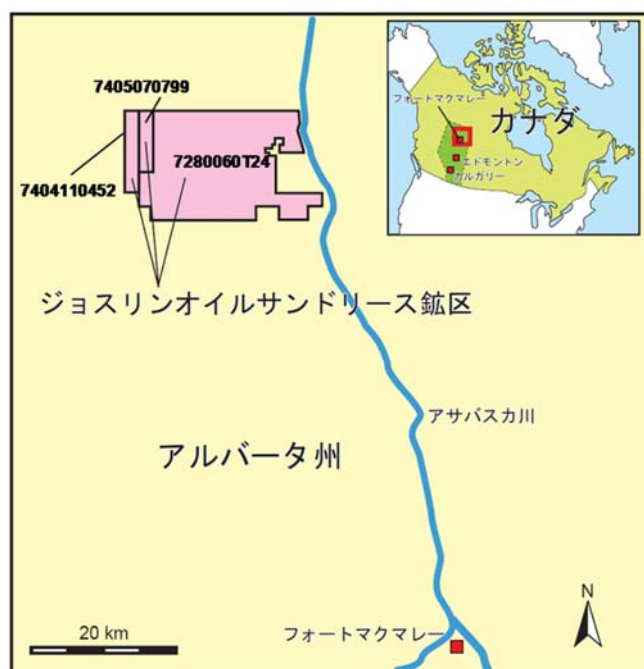
Block 18 鉦区 テイコク・オイル・エクアドル



- 当社権益比率:40%
(オペレーター:ペトロブラス)
- コンセッション契約(2002-2022年)
- 生産量* : 日量約2万4千バレル
- 2008年10月27日、権益取得の政府承認手続きが完了
- 2008年12月16日、PESA(ペトロブラス社子会社)と権益譲渡について最終合意

* 全鉦区ベース2010年3月平均日産量

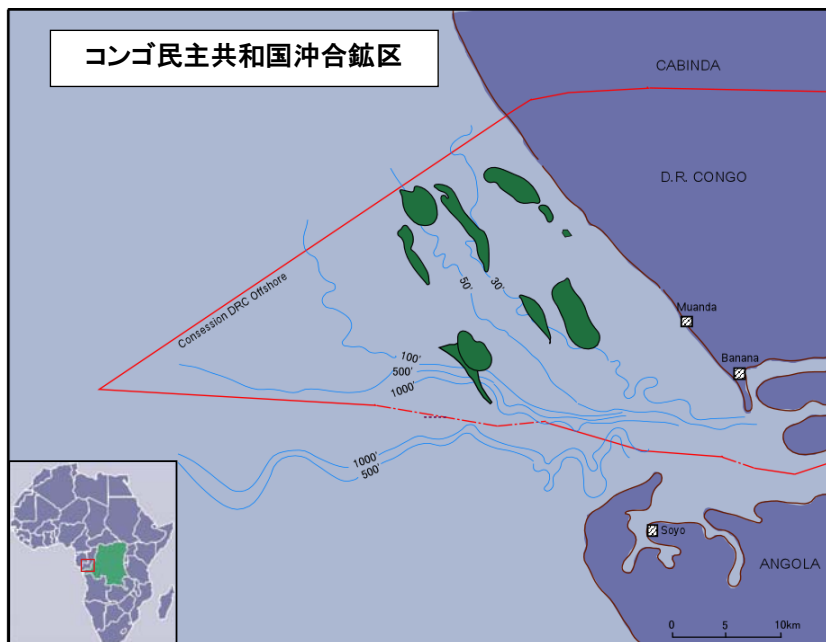
ジョスリン オイルサンドプロジェクト インペックスカナダ石油



ジョスリンオイルサンドリース鉦区 位置図

- 当社権益比率 :
 - ・ 上流開発プロジェクト 10% (オペレーター:TOTAL)
 - ・ 改質プロジェクト 7.14% (オペレーター:TOTAL)
- リース契約 (3鉦区の合計約220km²)
 - ・ 7280060T24 : 無期限
 - ・ 7404110452 : 2004年11月より15年間のprimary lease*
 - ・ 7405070799 : 2005年7月より15年間のprimary lease*
*延長可能
- 上流開発プロジェクト :
 - ・ スチーム圧入 (SAGD法) による生産は2009年3月から休止
 - ・ 2010年代後半までに、露天掘り開発により、日量10万バレルの生産を計画 (第一段階)、その後、日量20万バレルまで拡大予定 (第二段階)
- 改質プロジェクト :
 - ・ 2010年代中に処理能力日量13万バレルの改質プラント (第1段階) をアルバータ州エドモントンに建設する計画

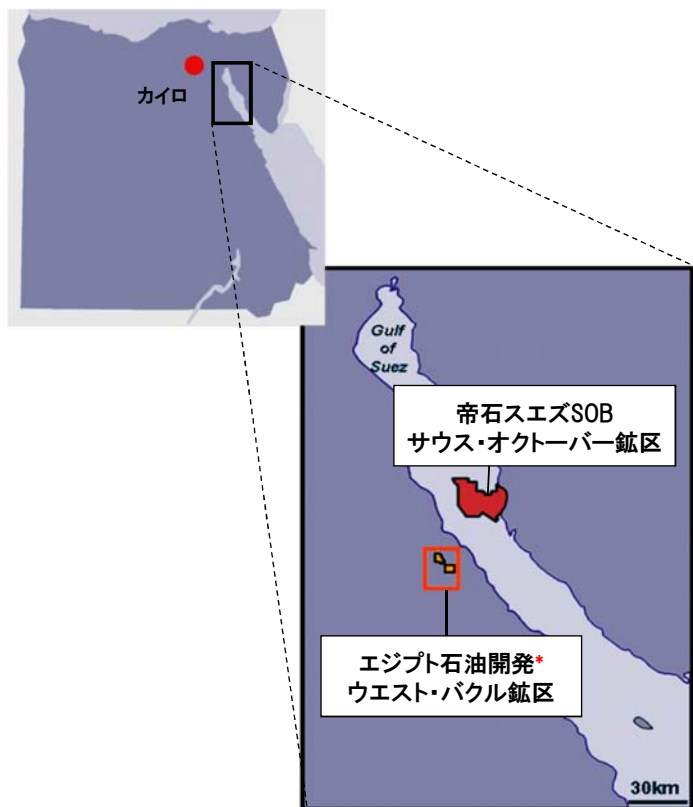
コンゴ民主共和国沖合鉱区 帝石コンゴ石油



- 当社権益比率:32.28%
(オペレーター:ペレンコ)
- コンセッション契約(1969-2023年)
- 生産開始:1975年
- 生産量*: 日量約1万5千バレル

*全鉱区ベース2010年3月平均日産量

エジプト プロジェクト エジプト石油開発*ほか



ウェスト・バクル鉱区

- 当社権益比率:100%(オペレーター)
- PS契約(1975-2020年+5年延長オプション)
- 生産開始:1980年
- 生産量**: 日量約4千バレル

サウス・オクトーバー鉱区

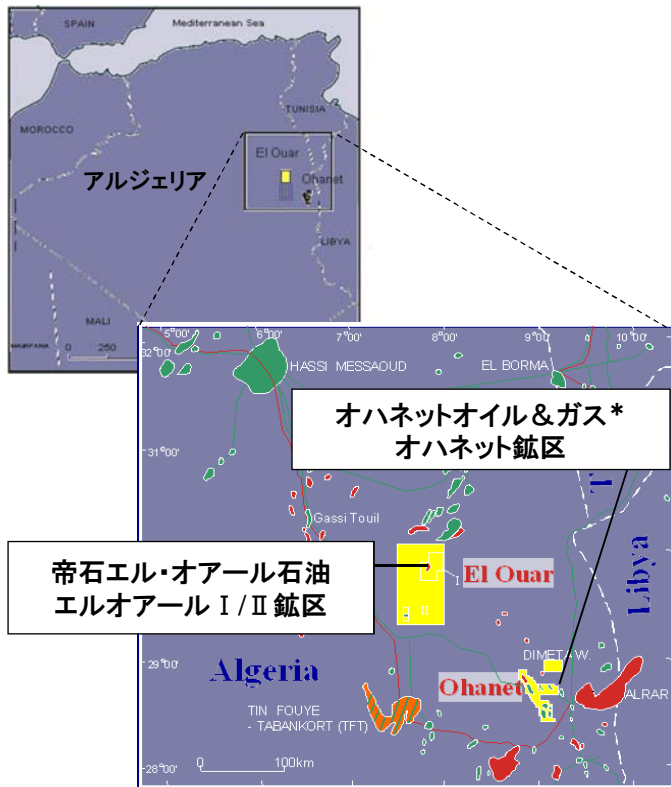
- 当社権益比率:35%(オペレーター:Dana Petroleum)
- PS契約(2005-2010年)
- 地質解釈作業実施中

* 当社株主シェア52.7%

**全鉱区ベース2010年3月平均日産量

アルジェリア プロジェクト

オハネットオイルアンドガス*/帝石エル・オアール石油 **INPEX**



オハネット鉱区

- 権益比率:30%(オペレーター:BHPB)
- リスクサービス契約(2000-2011年)
- 生産開始:2003年10月
- 生産量**
 - ・ドライガス: 日量約490百万立方フィート
 - ・コンデンセート: 日量約1万7千バレル
 - ・LPG: 日量約1万バレル

エル・オアール I / II 鉱区

- 当社権益比率:10.29%(オペレーター:ENI)
- コンセッション契約
- 原油およびガス・コンデンセート田の開発準備中

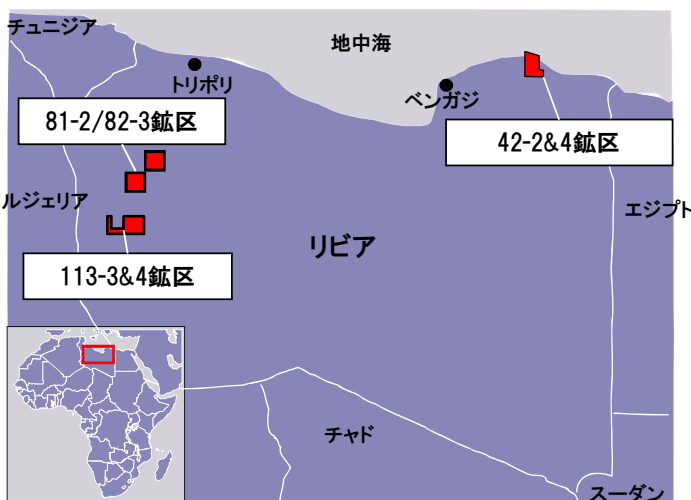
* 当社株主シェア15%

** 全鉱区ベース2010年3月平均日産量

38

リビア プロジェクト

Teikoku Oil Libya UK Ltd/インペックスリビア石油 **INPEX**

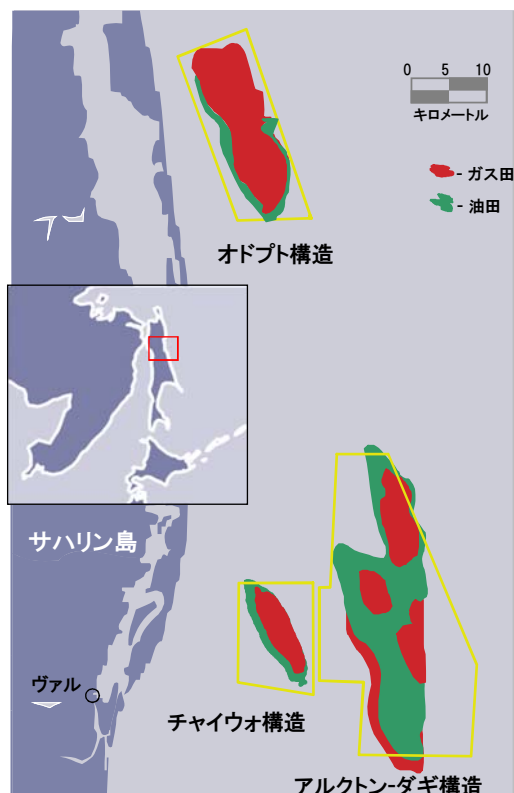


- 当社権益比率
 - ・ 81-2鉱区、82-3鉱区:73%(オペレーター)
 - ・ 42-2&4鉱区:40%(オペレーター:TOTAL)
 - ・ 113-3&4鉱区:85%(オペレーター)
- PS契約(探鉱契約5年間)
 - ・ 81-2/82-3鉱区/42-2&4鉱区:2005-2010年
 - ・ 113-3&4鉱区:2007-2012年
- 作業現況
 - ・ 81-2/82-3鉱区:地質解釈作業実施中
 - ・ 42-2&4鉱区:試掘作業中
 - ・ 113-3&4鉱区:地質解釈作業実施中

39

サハリン I

サハリン石油ガス開発 INPEX



*2010年3月平均日産量

- サハリン石油ガス開発(SODECO):
当社が5.75%の株式を保有
(石油公団が保有していた50%の株式は経済産業大臣が承継し、当社は諸条件が整えば、最大33%まで取得する方向で調整中)
- SODECOの権益比率: 30.0%
- 生産量*
 - ・ 原油・コンデンセート 日量約15万バレル
 - ・ ガス 日量約926百万立方フィート
- オペレーター: ExxonMobil
- パートナー: ONGCヴィデッシュ、サハリンモルネフテガス・シェルフ、RNアストラ
- PS契約: 2001年12月、プロジェクトの「商業性宣言」がロシア政府より承認され、20年間の開発期間に移行
- 2005年10月生産開始、2006年10月原油輸出開始
- 天然ガスをロシア国内に供給。さらに中国等へ輸出を検討中

東シナ海

国際石油開発帝石 INPEX



- 1969年: 試掘権を出願
- 1981・84年: 地震探鉱を実施
- 1992年: 中国側が平湖油・ガス田を発見、1998年生産を開始
- 1997～1999年: 石油公団が地震探鉱を実施
- 2004～2005年: 石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)が地震探鉱を実施
- 2005年4月: 経済産業省が試掘権設定のための処理手続きを開始、これを受け、九州経済産業局に対して、当社出願42,000km²のうち3エリア(約400km²)の試掘権設定の願いを提出
- 2005年7月: 同3エリアの試掘権が付与され、8月に鉱業権設定が完了
- 2008年6月18日: 東シナ海における日中間の協力について、日中政府間で以下を基本合意。
 - ・ 日中間の東シナ海における共同開発
 - ・ 白樺(中国名:「春曉」)油ガス田開発
- 現在は、共同開発の具体的な内容、進め方について政府間の協議が進められているものと認識。当社グループとしては、引き続き同協議の行方を見守りながら、作業着手への準備を整えつつ、関係官庁等と協議した上で進めたいと考えている

主要会社一覧及び石油契約①

会社名	鉱区名又はプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	ステージ
・日本					
国際石油開発帝石	南長岡ガス田ほか*	日本	コンセッション	-	
・アジア/オセアニア					
国際石油開発帝石	マハカム沖鉱区	インドネシア	PS	-	
ナトゥナ石油	南ナトゥナ海B鉱区	インドネシア	PS	100%	
MI Berau B.V.	ベラウ鉱区(タンゲーLNG)	インドネシア	PS	44%	
インペックスマセラアラフラ海石油	マセラ鉱区(アバディ)*	インドネシア	PS	51.8%	
サウル石油	バユ・ウンダン	チモール海共同開発地域	PS	100%	
インペックス西豪州ブラウズ石油	WA-37-R(イクシス)/WA-285-P *	オーストラリア	コンセッション	100%	
インペックスチモールシー	キタン油田	チモール海共同開発地域	PS	100%	
アルファ石油	ヴァンゴッホ油田	オーストラリア	コンセッション	100%	
アルファ石油	ラベンスワース油田	オーストラリア	コンセッション	100%	
・ユーラシア					
インペックス南西カスピ海石油	ACG油田	アゼルバイジャン	PS	51%	
インペックス北カスピ海石油	カシャガン油田	カザフスタン	PS	45%	

注: *オペレータープロジェクト

42

主要会社一覧及び石油契約②

会社名	鉱区名又はプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	ステージ
・中東					
ジャバン石油開発	ADMA鉱区(アッパーザクム油田等)	アラブ首長国連邦	コンセッション	100%	
アザデガン石油開発	アザデガン油田	イラン	サービス	100%	
・アフリカ					
帝石コンゴ石油	コンゴ民主共和国沖合鉱区	コンゴ民主共和国	コンセッション	100%	
エジプト石油開発	ウエスト・バクル鉱区*	エジプト	PS	52.7%	
帝石スエズSOB	サウス・オクトーバー鉱区	エジプト	PS	100%	
オハネットオイルアンドガス	オハネット鉱区	アルジェリア	サービス	15%	
帝石エル・オアール石油	エル・オアール I / II 鉱区	アルジェリア	コンセッション	100%	
Teikoku Oil Libya UK Ltd	81-2/82-3鉱区*	リビア	PS	100%	
インペックスリビア石油	42-2&4/113-3&4鉱区*	リビア	PS	100%	
・米州					
インペックスカナダ石油	ジョスリンオイルサンドリース鉱区	カナダ	コンセッション	100%	
テイコク・オイル・アンド・ガス・ベネズエラ	コパ・マコヤ*/グアリコオリエンタル	ベネズエラ	ジョイントベンチャー	100%	
PT Moruy II, S.A.	モルイII 鉱区	ベネズエラ	ジョイントベンチャー	50%	探鉱中
Teikoku Oil (North America)	Ship Shoal 72、West Cameron 401/402ほか	米国	コンセッション	100%	
Frade Jap ã o Petr3leo Limitada	フラージ鉱区	ブラジル	コンセッション	37.5%**	
テイコク・オイル・エクアドル	Block 18	エクアドル	コンセッション	100%	

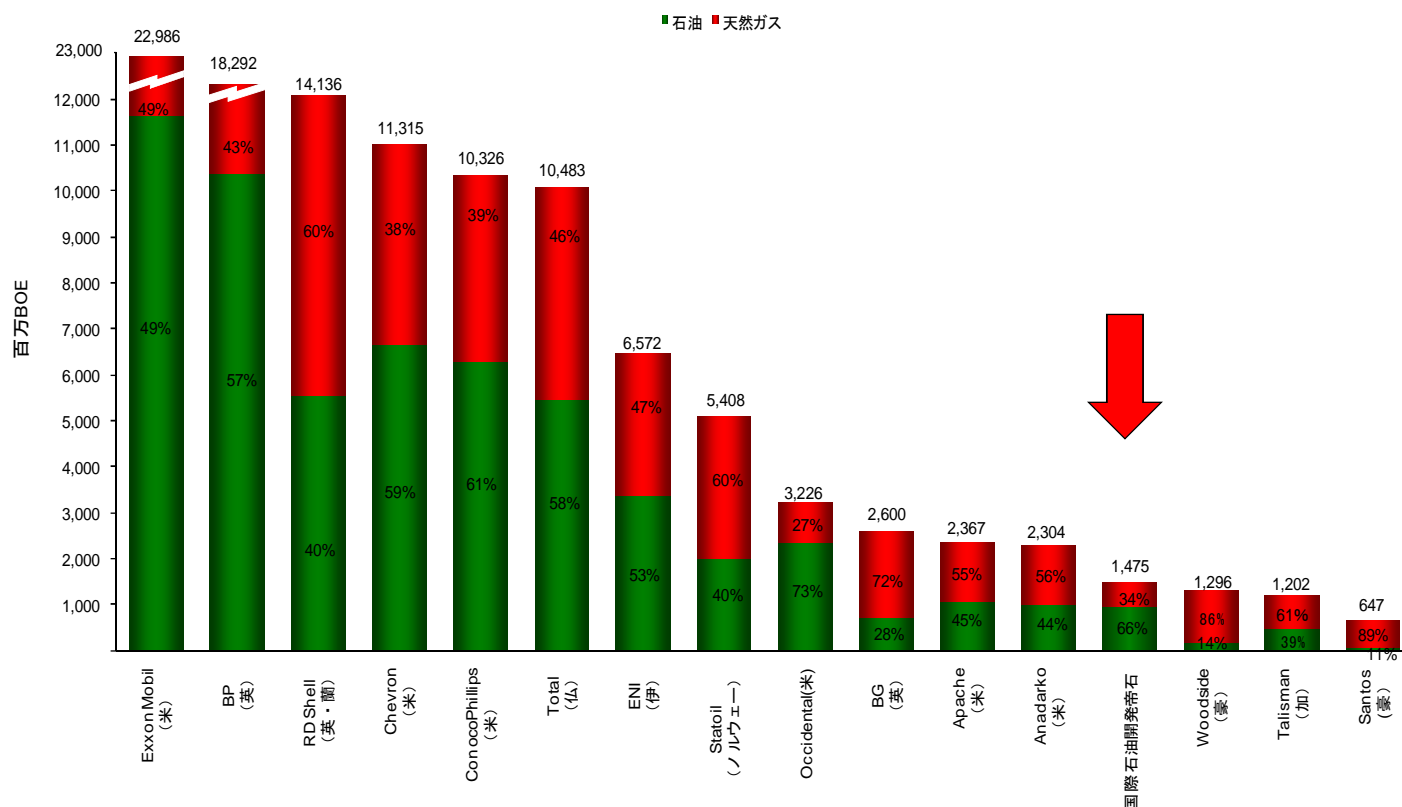
注: *オペレータープロジェクト

**インペックス北カンボス沖石油(当社の持分法適用関連会社)の子会社。出資比率は同社を通じた当社の実質的な比率。

43

その他

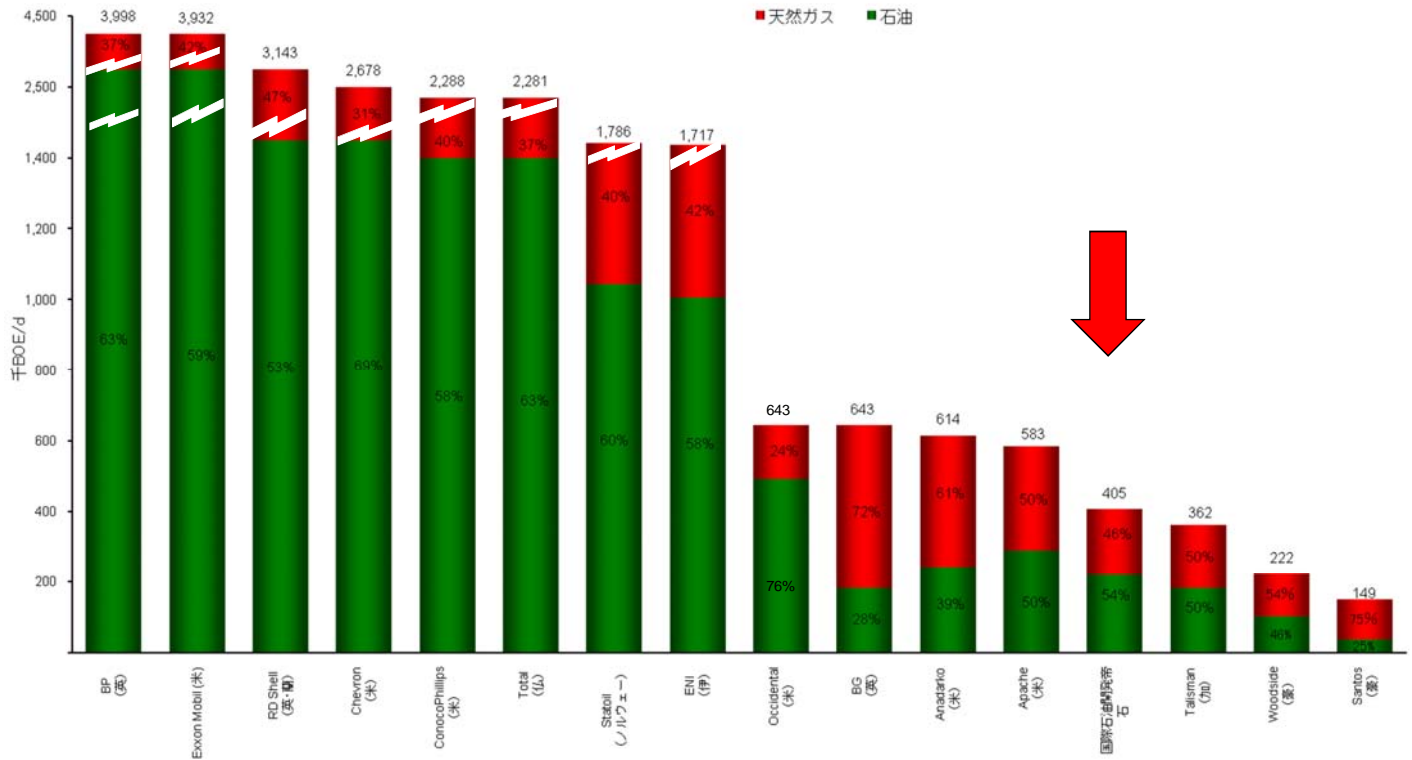
メジャー・主要な独立系石油ガス会社との
確認埋蔵量の比較



出所:直近の各社公表財務情報

注: * 各社2009年12月末時点であるが、当社は2010年3月末時点の米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。当社の確認埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づき、DeGolyer & MacNaughton社評価対象外の埋蔵量は含まない。石油にはピチューメン、合成原油等非在来型資源を含む。持分法適用会社の持分を含む。比較企業として産油国国営企業は除外している。

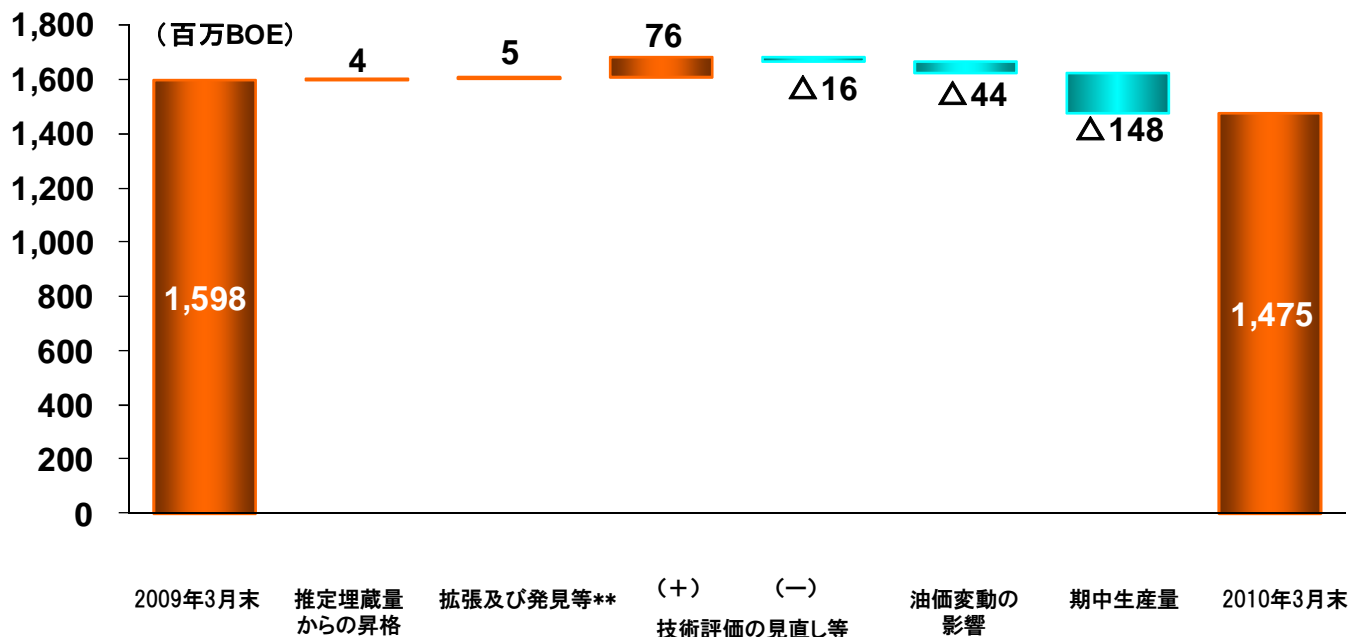
メジャー・主要な独立系石油ガス会社との 生産量の比較



出所: 直近の各社公表財務情報

注: * 各社2009年12月期であるが、当社は2010年3月期の米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。石油にはピチューメン、合成原油等、非在来型資源を含む。持分法適用会社の持分を含む。比較企業として産油国国営企業は除外している。石油にはピチューメン、合成原油等非在来型資源を含む。

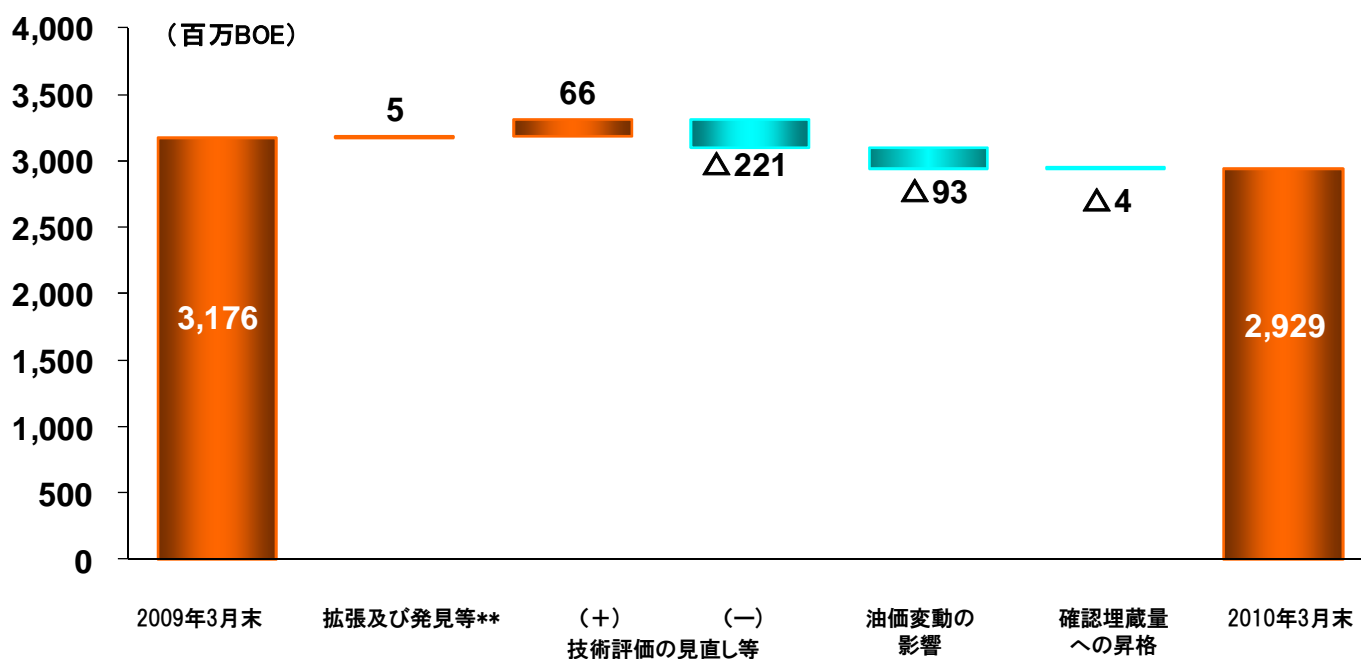
確認埋蔵量*の推移の要因分析



* 確認埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づく米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。

**買収及び売却等を含む。

推定埋蔵量*の推移の要因分析



*推定埋蔵量は、DeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づくSPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSIに従った確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計値から、SEC確認埋蔵量を差し引いた数値。持分法適用会社の持分を含む。

48 **買収及び売却等を含む。

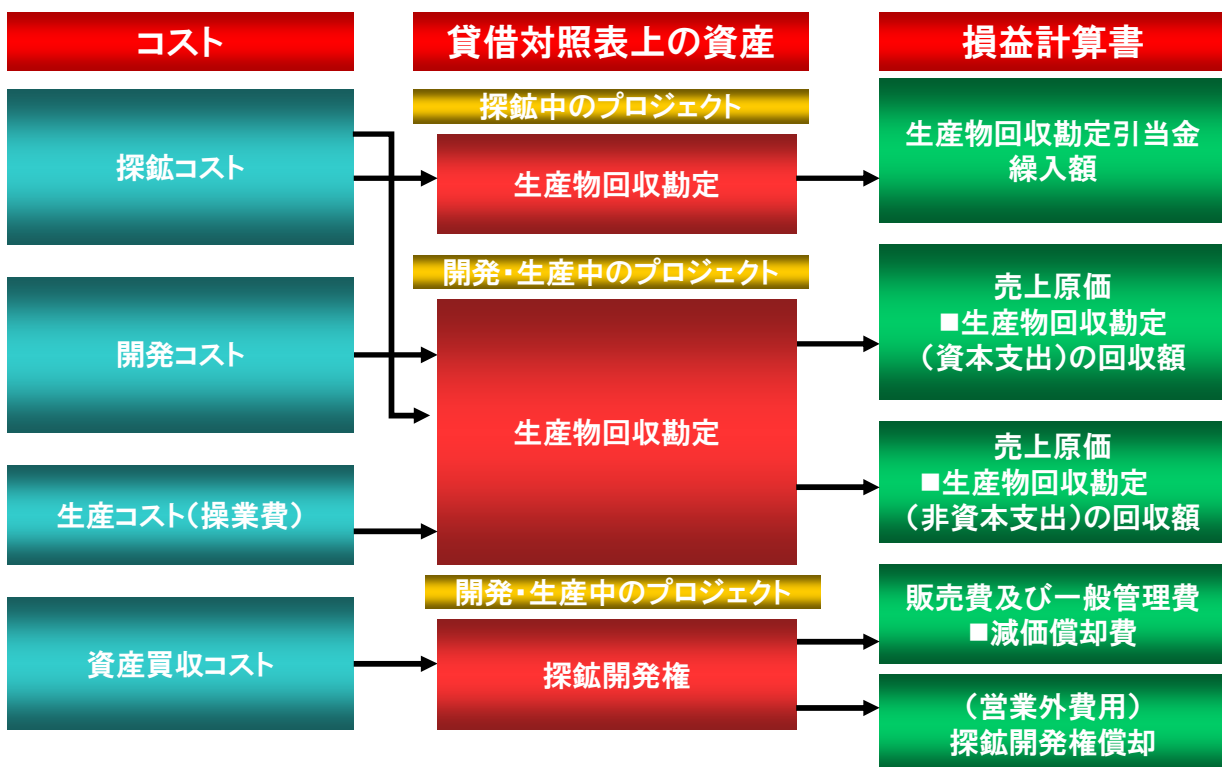
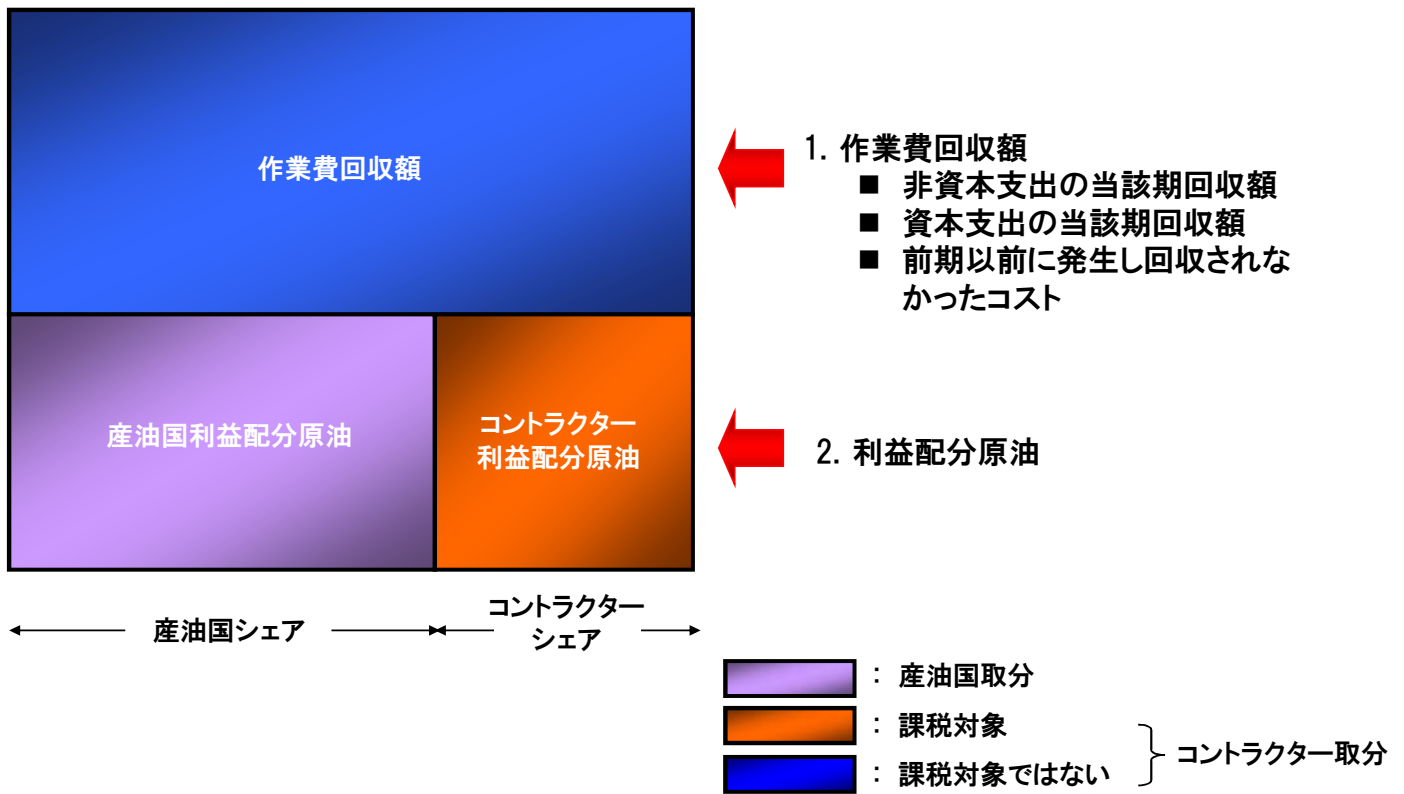
米国証券取引委員会が定める埋蔵量評価基準の改訂 INPEX

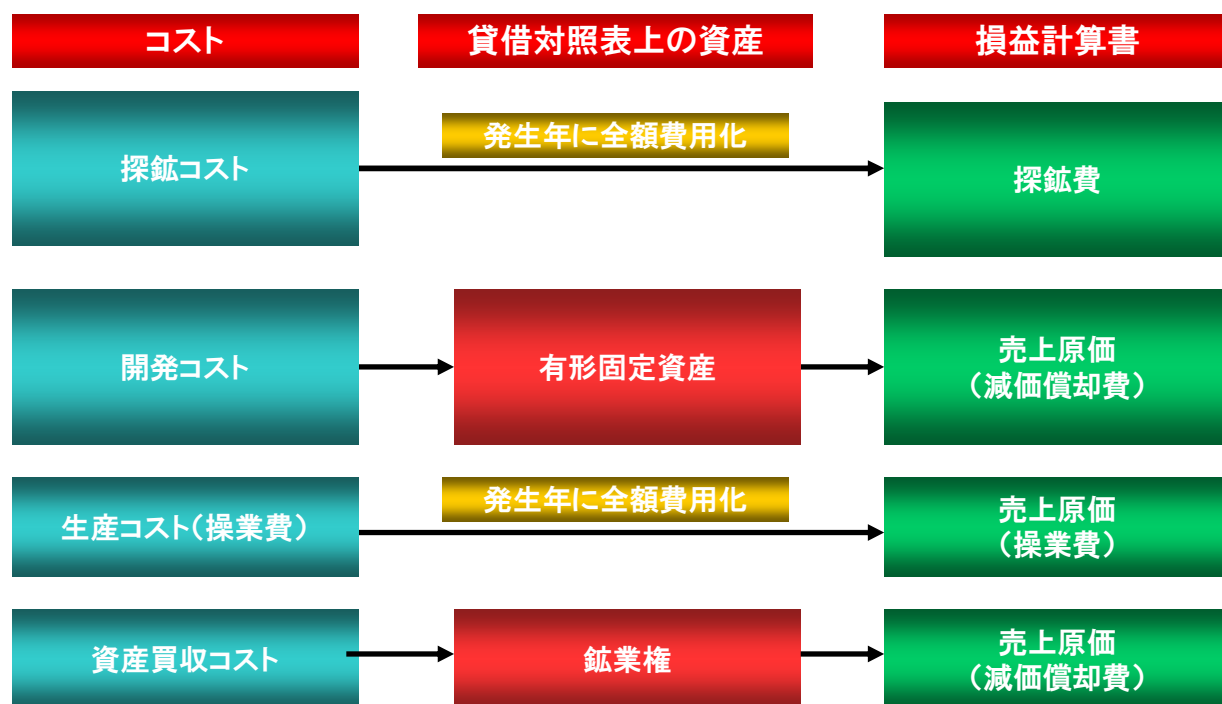
- 当社の確認埋蔵量(proved reserves)は、米国の投資家に広く知られ、業界で最も広く用いられている米国証券取引委員会が定める埋蔵量評価基準に従っております
- 米国証券取引委員会は、2008年末に改訂された埋蔵量評価基準を発表。当社も今回より改訂された評価基準に従い、埋蔵量評価を行っております
- 改訂による主な変更点は以下の通りです
 - 評価に用いる油ガス価が、評価日時点の油ガス価から過去12ヶ月の月初価格の単純平均へ変更
 - これまで認められていなかったオイルサンド、オイルシェール等の非在来型資源の埋蔵量計上を認める
 - これまで認められていなかった推定・予想埋蔵量の開示を認める
- 埋蔵量評価基準改訂に伴う当社確認埋蔵量への影響は軽微です

- 確認埋蔵量(proved reserves)の定義は、米国証券取引委員会規則 S-X Rule 4-10に従っており、地質的・工学的データに基づき、現在の経済条件及び操業条件の下で、契約期限までの間に合理的な確実性をもって回収することが可能である石油・ガスの数量(estimated quantities)とされております
- 確認埋蔵量に分類されるためには、炭化水素を採取するプロジェクトが開始されているか、妥当な期間内にプロジェクトを開始する合理的な確実性がなければならず、石油・ガス業界で用いられる埋蔵量の定義の中でも保守的な数値として広く認識されております
- また、米国証券取引委員会規則の定義による確認埋蔵量は、既存の坑井、施設及び操業方法を利用して回収することができる確認開発埋蔵量(proved developed)と将来掘削される坑井を利用して回収することができる確認未開発埋蔵量(proved undeveloped)の二つに区分されております

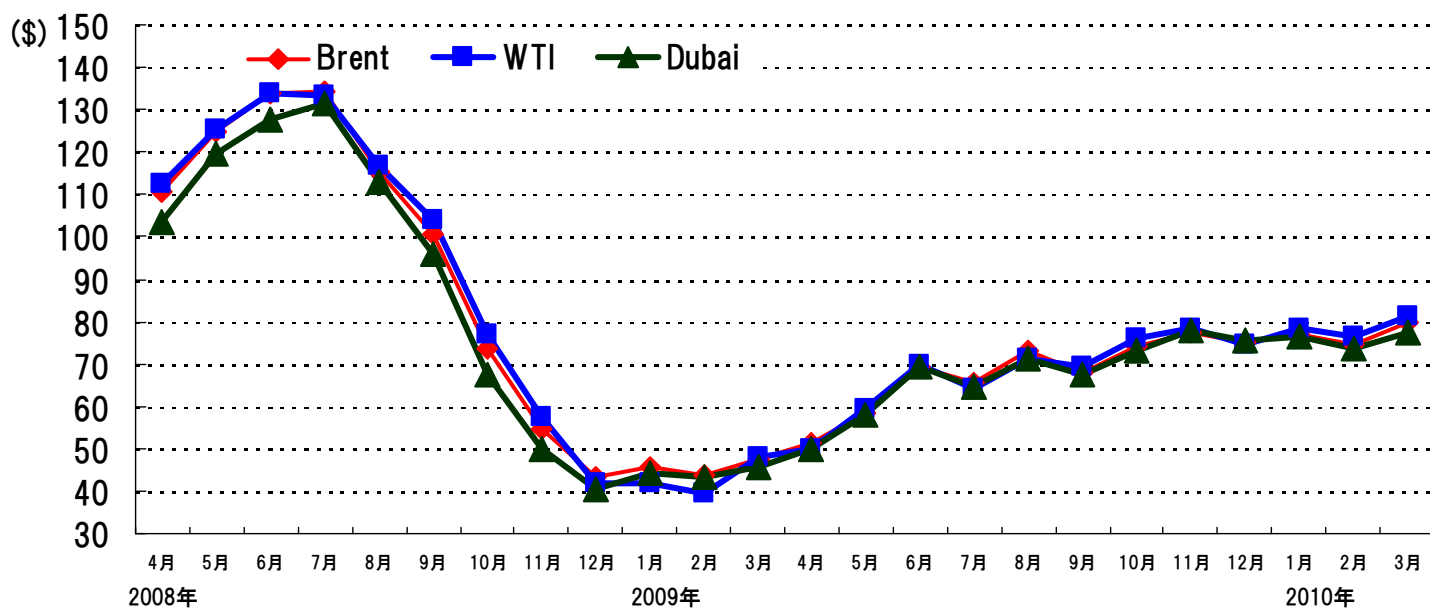
推定・予想埋蔵量の定義

- 推定埋蔵量(probable reserves)及び予想埋蔵量(possible reserves)の定義は、石油技術者協会(SPE)が世界石油会議(WPC)・米国石油地質技術者協会(AAPG)・石油評価技術者協会(SPEE)の支援の下に策定した基準(2007PRMS)に従っており、地質的・工学的データに基づき、確認埋蔵量に追加して商業的に回収することが可能と推定される石油・ガスの数量とされており、回収可能性の高さによって推定埋蔵量あるいは予想埋蔵量に分類されます
- 確率論的手法を用いて推定埋蔵量を算定する場合には、確認埋蔵量と推定埋蔵量を合計した数量(2P)を回収できる確率が50%以上であることが必要とされています
- 同じく予想埋蔵量を算定する場合には、確認埋蔵量、推定埋蔵量及び予想埋蔵量を合計した数量(3P)を回収できる確率が10%以上であることが必要とされています





油価の推移



	2009年 3月期	2009年												2010年 3月期
	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
Brent	85.66	51.39	58.59	69.27	65.75	73.06	68.15	73.93	77.58	75.21	77.01	74.79	79.93	70.39
WTI	85.94	49.95	59.21	69.70	64.29	71.14	69.47	75.82	78.15	74.60	78.40	76.45	81.29	70.71
Dubai	81.78	50.10	57.85	69.41	64.82	71.34	67.64	73.15	77.71	75.42	76.69	73.48	77.31	69.58